



Agile Product Lifecycle Management

Viewer の補足

v9.3.0.2

部品番号: B61300-01

2011年3月

著作権および商標について

Copyright © 1995, 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことによる損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することができます。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

著作権および商標について	ii
第1章 AutoVue for Agile 20 のインストールとアップグレード	7
第2章 AutoVue for Agileの設定.....	11
概要	11
クライアント要件.....	11
アーキテクチャ	11
セキュリティ	12
ファイアウォール設定の検証.....	12
AutoVue for Agileの起動.....	13
VueServletのテスト	13
ロード・バランシングのための複数Viewerの管理.....	14
クライアントとサーバーの通信	15
AutoVue for Agileの削除.....	15
AutoVue for Agileのトラブル・シューティング	15
AutoVue for Agileのエラー	16
WebクライアントまたはJavaクライアントが接続できない.....	16
ファイル・マネージャが使用できない	16
フォントが正しく表示されない.....	16
ポート番号の変更.....	16
Oracle Enterprise LinuxでのAutoVueモバイル・パックの使用.....	17
AutoVue for Agile PLMの追加マニュアル.....	17
第3章 AutoVue for Agileの使用方法.....	19
このマニュアルの使用方法.....	19
ヘルプを使用する.....	19
AutoVue for Agileについて	20
AutoVue for Agile ウィンドウ	21
複数ファイルで「添付ファイル」タブ行を表示する	21
AutoVue for Agileを理解する	22
AutoVue for Agileモード	22
表示モード	22
マークアップ・モード	22
AutoVue for Agile ウィンドウのコンポーネント	23
PinMeアイコン	23
メニュー・バー	24
ツールバー	24
ステータス・バー	24
オブジェクトを移動する	24

ショートカット・メニューを使用してコマンドへアクセスする	24
進行中の操作をキャンセルする	25
第4章 Agile固有の特徴と機能	27
AutoVue for AgileでAgile添付ファイルを開く	27
Webクライアントからファイルを表示	27
Javaクライアントからファイルを表示	28
ViewerウィンドウからAgile添付ファイルを開く	29
ファイルのリビジョンまたはバージョンを比較する	31
設計オブジェクト構造の表示	32
ドキュメント構造化ファイル・タイプの表示	32
構造化ファイル・タイプを表示する	32
バージョン・ブラウザの使用	33
ビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブから各種ファイル・バージョンにアクセス	35
アドホック・マークアップ	36
マークアップ - しくみ	36
添付ファイルのマークアップまたはレッドラインについてのガイドライン	36
Agile PLM 9.3におけるWebクライアントECOマークアップ	37
Agile PLM 9.2.2.xまたは9.2.1.xにおけるWebクライアントECOマークアップ	37
JavaクライアントECOマークアップ	38
変更指示のマークアップをレッドラインする	39
ドキュメントをマークアップする	42
ドキュメントのマークアップに関するヒント	42
マークアップ昇格	42
変更ベース・マークアップのマークアップ昇格	42
アドホック・マークアップのマークアップ昇格	43
2D機能と特徴	44
EDAの機能と特徴	44
3D機能と特徴	45
3Dの基本について	45
9.3 Webクライアントから3D CADアセンブリを複数のファイル・フォルダで表示する	46
9.2.2.xまたは9.2.1.x Webクライアントから3D CADアセンブリを複数のファイル・フォルダで表示する	46
Javaクライアントから3D CADアセンブリを複数のファイルを含むファイル・フォルダで表示する	47
クロス・プロービング	47
AutoVue for Agileでのクロス・プロービングの開始	48
WebクライアントとJavaクライアントでのクロス・プロービング	50
ファイルを比較する	51
ファイルのマークアップと比較	51
WebクライアントとJavaクライアントでのファイルの比較	51
検索でファイルを比較する	51
AutoVue for Agileにおける比較の開始	53

ファイルのオーバーレイ	54
WebクライアントとJavaクライアントでのファイルのオーバーレイ	55
AutoVue for Agileにおけるオーバーレイの開始	56
概略図とPCBファイルの操作	57
リアルタイム・コラボレーション	58
コラボレーション・セッションの概要	58
デジタル・モックアップ	59
AutoVue for Agileにおけるモックアップ（DMU）の開始	59
WebクライアントとJavaクライアントでのデジタル・モックアップ	60
AutoVueモバイル	62
第5章 AutoVue for Agile では変更および使用制限されている機能	63
ユーザー・インターフェースの変更	63
ファイル・ストレージと管理の変更	63
ファイルを開く機能	64
ハイパーリンクを使用する	64
第6章 印刷	65
AutoVue for Agileからのドキュメントの印刷	65
印刷のプロパティのヘッダ/フッタ・グループ	65
印刷プロパティのウォーターマークとバナー	66
ウォーターマーク・グループ	66
印刷プロパティのスタンプ・グループ	67
DGNファイルを印刷する	67
第7章 AutoVue for Agileの管理タスク	69
印刷オプションを設定する	69
.hpgおよび.pltファイルのウォーターマークを印刷する	70
SolidWorksファイルのビューポート・ボーダを印刷する	70
ヘッダとウォーターマーク・フォントの設定を修正する	70
フォントを追加する	71
Excelファイルを表示する	71

はじめに

Agile PLMマニュアル・セットにはAdobe® Acrobat PDFファイルが含まれます。[Oracle Technology Network \(OTN\) Webサイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) には、Agile PLMの最新版のPDFファイルがあります。このWebサイトのマニュアルは、その場で表示することもダウンロードして使用することもできます。また、使用しているネットワーク上のAgile PLMマニュアル・フォルダにAgile PLMマニュアル (PDF) ファイルが格納されている場合もあります。詳細は、Agile管理者にお問い合わせください。

注意 PDFファイルを表示するには、Adobe Acrobat Readerのバージョン 7.0 以降（無料）を使用する必要があります。このプログラムは、[Adobe社のWebサイト](http://www.adobe.com) (<http://www.adobe.com>) からダウンロードできます。

[Oracle Technology Network \(OTN\) Webサイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) は、Agile WebクライアントとAgile Javaクライアントのいずれの場合も、「ヘルプ」→「マニュアル」の順に選択してアクセスできます。さらに疑問点がある場合やサポートが必要な場合は、My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) にお問い合わせください。

注意 Agile PLM マニュアルに関する問題について Oracle サポートにお問い合わせいただく前に、タイトル・ページにある部品番号をご確認ください。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800) 446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

Readme

Agile PLMの最新情報は、すべて[Oracle Technology Network \(OTN\) Webサイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) にあるReadmeファイルに記載されています。

Agile トレーニング支援

Agile トレーニングの講義内容の詳細は、[Oracle University Webページ](http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) (http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) にアクセスしてください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

AutoVue for Agile 20 のインストールと アップグレード

AutoVue for Agile PLM バージョン 20 のインストーラでは、あらゆるプラットフォームにおける Agile PLM バージョン 9.3.0.x、9.2.2.x または 9.2.1.x の Agile PLM アプリケーション・サーバーおよびファイル・マネージャのコンポーネントが更新されます。また、Windows または Linux に AutoVue for Agile PLM バージョン 20 がインストールされます。

AutoVue for Agile PLM バージョン 20 のインストーラは、アプリケーション・サーバーおよびすべてのファイル・マネージャの他に、AutoVue をインストールするマシンで実行する必要があります。AutoVue をインストールする場合は、インストーラの「**AutoVue for Agile PLM**」オプションを選択し、アプリケーション・サーバーまたはファイル・マネージャでインストーラを実行している場合は、「**Upgrade AutoVue 20 Client Libraries**」オプションを選択します。AutoVue と同じマシンにアプリケーション・サーバーまたはファイル・マネージャがインストールされている場合、「**AutoVue for Agile PLM**」および「**Upgrade AutoVue 20 Client Libraries**」の両方のオプションをインストーラで選択する必要があります。

Linuxにインストールする場合の手順は、次のとおりです。

1. 旧バージョンの AutoVue をすべてアンインストールします。
2. Red Hat Update Agent の up2date を実行し、Xvfb および Mesa の最新ファイルをダウンロードします。

注意 AutoVue Server のインストーラでは、Mesa または Xvfb がインストールされているかどうかは検出されません。
3. Xvfb バージョン 6.8.2 以降をインストールします。
必ず XRender および GLX 拡張機能とともに Xvfb をインストールしてください。
4. 最新の Mesa パッケージをインストールします（推奨バージョンは 6.5.2 以降）。
5. libsane パッケージをインストールします（インストール済でない場合）。
6. libXp パッケージをインストールします（インストール済でない場合）。
7. Wine RPMパッケージwine-av-20040914-20.i386.rpmを[Oracle AutoVueオープン・ソース・コンポーネント](http://oss.oracle.com/AutoVue) (<http://oss.oracle.com/AutoVue>) からインストールします。
 - 旧バージョンの Wine を使用している場合、これをアンインストールしてから、AutoVue 20 で認証されたパッケージをインストールする必要があります。
 - 次のコマンドを実行し、root ユーザーとして Wine をインストールします。
`# rpm -i wine-av-20040914-20.i386.rpm`

注意 このバージョンの Wine は、/usr/av フォルダにインストールされます。
8. 次の項の手順に従い、Linux に AutoVue for Agile バージョン 20 をインストールします。

AutoVue for Agile バージョン 20 をインストールする手順は、次のとおりです。

1. Oracle AutoVue 20 を[Oracle E-Delivery](http://edelivery.oracle.com) (<http://edelivery.oracle.com>) からダウンロードし、一時ディレクトリに保存します。
2. 一時ディレクトリから、使用しているプラットフォーム用のセットアップ・ファイルを実行します。

Windows: setup_av_win.exe

Solaris: setup_av_sol.bin

Linux: setup_av_lin.bin

AIX: setup_av_aix.bin

Solx86: setup_av_solx86.bin

インストール・ウィンドウが表示されます。

3. インストーラの画面の詳細は、「ヘルプ」をクリックします。
4. 「次」をクリックしてインストーラの処理を続行します。

注意 アプリケーション・サーバーまたはファイル・マネージャにインストールする場合、「インストールセットを選択」パネルで「**Upgrade AutoVue 20 Client Libraries**」オプションを選択してください。

5. 「完了」をクリックしてインストールを終了します。

アプリケーション・サーバーでのインストール後

クライアント・ライブラリを更新した後、application.ear ファイルを再配置し、アプリケーション・サーバーを再起動する必要があります。アプリケーション・サーバーの再起動の手順は、Oracle Application Server での Agile PLM のインストールまたは Oracle WebLogic Server での Agile PLM のインストールのいずれかのマニュアルを参照してください。

ファイル・マネージャでのインストール後

クライアント・ライブラリを更新した後、ファイル・マネージャで webfs.far ファイルを再配置する必要があります。ファイル・サーバおよび Agile のすべての追加プロセスを停止します。次の手順で、ファイル・マネージャを再配置します。

- a. AGILE_HOME¥Tomcat¥webapps ディレクトリに移動します。
- b. webapps ディレクトリの下に Filemgr というディレクトリがあることを確認します。
- c. Filemgr ディレクトリが存在する場合、次のとおりに実行します。

```
cd ..
```

```
mkdir webapps.old
```

Windows: move webapps¥Filemgr webapps.old

UNIX: mv webapps/Filemgr webapps.old

- d. Tomcat を起動します。

クライアント・ライブラリがバージョン 20 にアップグレードされる前に、application.ear ファイルおよび webfs.war ファイルのバックアップが作成されます。バージョン 20 にアップグレードする場合、Profiles フォルダもバックアップされ、最新の GUI ファイルを含む新規 Profiles フォルダが作成されます。

バージョン19.xからアップグレードする場合

ファイル格納庫にある旧バージョンの CMF ファイルを削除する必要があります。CMF ファイルを削除するには、agile_home¥agileDomain¥tools にある MetaFilesRemover ユーティリティを使用します。MetaFilesRemover ユーティリティにより、ファイル格納庫からメタファイルが削除されます。

MetaFilesRemover.zip ファイルを解凍し、このユーティリティを実行して以前の CMF ファイルを削除します。

使用方法: java -jar MetaFilesRemover.jar [-delete <value>] [-age <value>] [-size <value>] -basedir <value> -prefix <value> -serverURL <value> -username <value> -password <value>

項目の説明

- **delete** はメタファイルを削除します。
- **age** は最終アクセス時間（日）を指定します。
- **size** はファイル・サイズ（KB）を指定します。
- **basedir** は、メタファイルが削除されるファイル格納庫の場所です。
- **prefix** はファイル名の接頭辞です。
- **serverURL** は DMS サービスの場所です。例: <http://server.company.com:80/Agile/services/DmsService>
- **username** は DMS サービスのユーザー名です。
- **password** は DMS サービスのパスワードです。

AutoVue for Agile の設定

この章のトピック

■ 概要	11
■ ファイアウォール設定の検証	12
■ AutoVue for Agileの起動	13
■ VueServletのテスト	13
■ ロード・バランスングのための複数Viewerの管理	14
■ AutoVue for Agileのトラブル・シューティング	15
■ AutoVue for Agile PLMの追加マニュアル	17

概要

AutoVue for Agile により、ユーザーは Web ブラウザを使用して、ドキュメント、図面および CAD ファイルを表示およびマークアップできます。

AutoVue for Agile は、次の 3 つのインストール・コンポーネントで構成されています。

- AutoVue for Agile サーバー
- AutoVue for Agile サーブレット
- AutoVue for Agile アプレット

AutoVue for Agile では、クライアント・コンピュータでのメンテナンスは必要ありません。Web ブラウザがファイル・マネージャからアプレットをダウンロードし、これをブラウザ・キャッシュに格納します。AutoVue for Agile の次回起動時に、ファイル・マネージャで新規バージョンが見つかった場合を除き、アプレットがキャッシュからロードされます。

AutoVue for Agile サーブレット (VueServlet) は、ファイル・マネージャのインストールの一部としてパッケージ化および配置されます。また、VueLink Servlet はファイル・マネージャに配置され、HTTP プロトコルを使用して Agile アプリケーション・サーバーに要求をトンネリングします。この通信のため、各ファイル・マネージャには、同じマシンまたは別のマシン上に関連 Viewer が必要です。Agile Web クライアントおよびキャッシング Viewer について指定されている点を除き、追加の設定は必要ありません。VueServlet は、標準 HTTP/HTTPS ポートで Agile Web クライアントなどの外部クライアントからファイアウォールを通して AutoVue for Agile にアクセスする際に使用されます。

クライアント要件

クライアント・コンピュータでは、Windows 2000 Professional (SP4) または Windows XP Professional 上で動作する Java 互換ブラウザが必要です。さらに、Java クライアントには JRE 5.0 が必要です。

アーキテクチャ

AutoVue for Agile は、インターネットおよびインターネット上のファイルの表示およびマークアップについて

て増える需要をサポートするために、サーバーのスケーラビリティを実現するよう設計されました。能力を倍にすることは、コンピュータをもう1台追加するのと同じくらい単純なことです。サーバーは、peer-to-peer 方式で負荷を自動的に振り分け、ボトルネックを回避します。

AutoVue for Agile は、複数の環境に対応するために複数の異なるレンダリング・スキームを埋め込みます。これらのスキームにより、ネットワークの帯域幅、サーバーとクライアントの間のロード・バランスング、サーバー設定およびパフォーマンス、インターネット、エクストラネット、インターネットの使用、および表示するファイルのサイズと形式などの問題をサーバーが考慮できます。ただし、すべてのレンダリング・オプションにおいて、AutoVue for Agile は問合せ用に必要な情報をすべて保持します。つまり、図面のインテリジェント機能は保持されます。たとえば、ユーザーはテキスト・ファイルおよびCAD ファイルでテキスト検索を実行したり、CAD ファイルの図面属性に基づいて問合せを実行できます。

使用するネットワーク設定（既存のファイアウォール、DMZ、セキュア接続およびプロキシ・サーバーなど）によっては、クライアントはダイレクト・ソケットまたは HTTP/HTTPS プロトコルを使用して AutoVue for Agile サーバーに接続し（Java サーブレットを使用）、システムでのセキュリティ侵害を防止できます。

セキュリティ

表示プロセスでは、表示できるドキュメントは AutoVue for Agile 上でレンダリングされ、表示可能なインテリジェント・データ・ストリームはクライアントに配信されます。このように、元のドキュメントはクライアント・コンピュータに転送されないため、AutoVue for Agile の実装によってセキュリティに関する懸念が一切なくなります。表示可能なデータの送信中、AutoVue for Agile では圧縮およびストリーミングのアルゴリズムを使用することで、サイズが大きく複数ページを含むドキュメントについてクライアント側への迅速なフィードバックを実現しています。

サーバーは、クライアントが使用できる機能を完全に制御しています。たとえば、ユーザーは各自のアクセス権限に応じて、印刷、レッドラインまたはその他の機能を実行する権限が付与または拒否されます。

AutoVue for Agile では、Cookie を使用してユーザー数を追跡します。Cookie は各ブラウザに割り当てられる一意の番号であり、ユーザーが連続して、または同時に開くファイルの数に関係なく、1人のユーザーを单一セッションとして定義します。

注意 ブラウザで Cookie を無効化または拒否した場合、AutoVue for Agile は引き続き動作します。ただし、ブラウザの各新規インスタンスによって AutoVue for Agile に新規セッションが作成されます。

HTTPS は、HTTPS を介する Viewer クライアントとサーバー間のすべての通信のトンネリングにセキュアな通信を確保するために使用できるもので、SSL が使用されます。アプレットは、AutoVue for Agile サーブレットにより AutoVue for Agile サーバーと通信する必要があります。トンネリングされるすべての Agile 通信が、SSL を使用して暗号化されます。

ファイアウォール設定の検証

Agile PLM 側のファイアウォールは、次の接続を許可するよう設定する必要があります。

- インターネットから Web サーバーへの受信 HTTP/HTTPS 接続
- DMZ の Web サーバーからファイアウォールの内側のアプリケーション・サーバーへの送信 TCP/IP 接続。BEA WebLogic ではポート 7001 または 7002 (SSL)、Oracle Application Server ではポート 7777 または 8888 (SSL)、ファイル・マネージャではポート 8009 を使用

AutoVue for Agileの起動

注意 インストール後、AutoVue Server サービスは手動に設定されています。マシンの起動時に AutoVue for Agile を起動するには、サービスを自動に設定してください。

WindowsでAutoVue for Agileを起動する手順は、次のとおりです。

AutoVue Server サービスを起動するか、「スタート」→「すべてのプログラム」→「AutoVue for Agile PLM」→「AutoVue Server」の起動を選択します。

LinuxでAutoVue for Agileを起動する手順は、次のとおりです。

1. コンソール・ウィンドウで、*AGILE_HOME/AVS/bin* ディレクトリに移動します。
2. 次のコマンドを入力してサーバーを初期化します。

```
jvueserver &
```

VueServletのテスト

注意 Agile View サーブレット (VueServlet) は、ファイル・マネージャのインストールの一部としてパッケージ化および配置されます。VueLink Servlet はファイル・マネージャに配置され、HTTP プロトコルを使用して Agile アプリケーション・サーバーに要求をトンネリングします。追加設定は必要ありません。

VueServlet は、標準 HTTP/HTTPS ポートで外部クライアントからファイアウォールを通して AutoVue for Agile にアクセスする際に使用されます。

アプリケーション・サーバーでは、VueServlet が AutoVue for Agile のホーム・ディレクトリからロードされており、VueServlet が Viewer と通信することを確認する必要があります。ブラウザを開き、ロケーション・バーに次の URL を入力します。

http://FileManager_hostname or LoadBalancer:port/Filemgr/VueServlet

JVueServer が稼働していることを示すメッセージが表示されます。サーブレットのトンネリングおよびライセンスに関する情報を含むサンプル・ページが表示されます。

- Windows では、「ページを表示できません」というメッセージを受け取った場合、World Wide Web サーバー・サービスがコンピュータ上で実行中であることを確認します。実行中でない場合、「サービス」ウィンドウからサービスを起動します。
- ブラウザでこの URL を指定し、「ページが見つかりません」というメッセージを受け取った場合、次の点を確認してください。
 - Web サーバーにアクセスできることを確認してください。
 - Web プロキシ設定をチェックし、仮想パスおよびポート番号が正しいことを確認してください。Oracle Application Server では 9ias.conf ファイルを確認します。WebLogic では iisproxy.ini ファイルを確認します。

ロード・バランシングのための複数Viewerの管理

AutoVue for Agile は、インターネットおよびインターネット上でのファイルの表示およびマークアップの需要増加をサポートするために、サーバーのスケーラビリティを実現するよう設計されています。AutoVue for Agile は 1 台のコンピュータ上のプロセス・プール内で動作でき、これによって同時接続の応答性が向上し、マルチ CPU コンピュータ全体で負荷が分散されます。

デフォルトのプロセスは 4 つの同時サービスをプールします。このデフォルトは、[¥AGILE_HOME¥AVS¥bin](#) の AutoVue for Agile ホーム・フォルダにある jvueserver.properties ファイルで次のように指定されます。

```
jvueserverx.nt.processPoolSize=4
```

通常、プール内の各プロセスについて 50MB 程度を許可する必要があります。4 つのサービスのプロセス・プール・サイズは、約 200MB の RAM が必要です。256MB の RAM を実装したコンピュータでは、残りの RAM でオペレーティング・システムおよびその他のサービスを実行できます。コンピュータ上の RAM を増設することで、プロセス・プールを使用するサービスの数を増やすことができます。

既存のサーバーを再起動したり切断したりせず、サーバーがオンラインである間にサーバーを追加してより多くのユーザーをサポートできます。能力を倍にすることは、別のコンピュータを追加するのと同じくらい単純なことです。複数の Viewer を使用する場合、Viewer クライアント要求を手動で様々な Viewer に送信することで、負荷をサーバー間に効果的に振り分けることができます。

動的および静的ロード・バランシングがサポートされています。詳細は、AutoVue Client-Server Edition インストールおよび管理マニュアルを参照してください。

複数の Viewer の機能は、次のように設定する必要があります。

- 各 Viewer コンピュータは個別に動作します。
- 各 Viewer コンピュータは、同じ Agile アプリケーション・サーバー・コンピュータ、あるいは单一または分散 Agile PLM システム内の別の Agile アプリケーション・サーバー・コンピュータを示すことができます。
- Viewer はクラスタ化されていないため、すべての Java クライアントが任意の Viewer に接続するための單一エントリ・ポイント・コンピュータはありません。

会社のファイアウォールの外側にある Agile Web クライアントについて、複数の Viewer の機能を次のように設定する必要があります。

- AutoVue for Agile クライアント・アプレットは、標準 HTTP/HTTPS ポートでファイアウォールを通して通信できます。
- 各 AutoVue for Agile コンピュータは個別に動作します。
- 各 AutoVue for Agile コンピュータは、同じ Agile アプリケーション・サーバー・コンピュータ、あるいは单一または分散 Agile PLM システム内の別の Agile アプリケーション・サーバー・コンピュータを示すことができます。
- 外部 Agile Web クライアントには、AutoVue for Agile クライアントおよび AutoVue for Agile サーブレットとともに Agile Web クライアントをホストする様々な Web サーバーを示す異なる URL が指定されます。同様に、各 AutoVue for Agile クライアントおよび AutoVue for Agile サーブレットは、負荷を分散するために異なる Viewer を示します。
- Viewer はクラスタ化されていないため、すべての Agile Web クライアントが任意の Viewer に接続するための單一エントリ・ポイント・コンピュータはありません。

特定のポートにおけるファイアウォールを通した AutoVue for Agile サーバーおよび AutoVue for Agile クライアントの通信を設定するには、標準 HTTP ポートを使用する必要があります。

クライアントとサーバーの通信

AutoVue for Agile では、実行時にクライアント・サーバー通信で（ホスト名または DNS 名ではなく）IP アドレスを使用する上での問題は、アプリケーション・サーバーが VueServlet もホストするため解決します。VueServlet は AutoVue for Agile のプロキシの役割を持ち、その他の Agile サーバー・コンポーネントとともにイントラネット上に配置されます。さらに、VueServlet はアプリケーション・サーバー上で Agile Web クライアントとともに動作中であるため、Web サーバー・プロキシは外部要求をイントラネットに転送します。VueServlet は、ファイル・マネージャのインストールの一部として提供されます。

AutoVue for Agile の削除

AutoVue を削除するには、次の手順を実行します。

WindowsでAutoVue for Agileを削除する手順は、次のとおりです。

1. AutoVue サービスを停止します。
 - a. 「サービス」ダイアログ・ボックスを開きます。
 - b. 「**AutoVue Server**」を選択し、サービスを停止します。
 - c. 「サービス」ダイアログ・ボックスを閉じます。
2. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」を選択します。
3. 「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。
「プログラムの追加と削除」プロパティ・ダイアログが表示されます。
4. ウィンドウを下方向にスクロールし、**AutoVue Web Edition**を選択します。
5. 「変更と削除」をクリックします。
6. 「アンインストール」をクリックし、「OK」をクリックして削除を確認します。
7. 「終了」をクリックします。

「スタート」メニューからAutoVue for Agileを削除する手順は、次のとおりです。

1. 「スタート」→「すべてのプログラム」→「AutoVue for Agile PLM」→「Setup」→「Uninstall AutoVue」の順に選択します。
2. Agile ホーム・ディレクトリの場所からインストール・フォルダを選択し、削除します。

LinuxでAutoVue for Agileを削除する手順は、次のとおりです。

1. View Server アプレットで「Shutdown」をクリックするか、jvueserver プロセスを停止して、AutoVue Server を停止します。
2. VIEWER_HOME/AVS/_uninst ディレクトリに移動します。
3. **uninstall_linux2.bin** ファイルを実行し、AutoVue for Agile をアンインストールします。

AutoVue for Agile のトラブル・シューティング

この項では、AutoVue for Agile インストールのトラブル・シューティングに関する情報を提供します。

AutoVue for Agileのエラー

この項では、AutoVue for Agile の使用時に発生する可能性のあるエラーについて説明します。

WebクライアントまたはJavaクライアントが接続できない

Web クライアントまたは Java クライアントが AutoVue for Agile PLM の起動を試行したときに次のエラー・メッセージを受け取った場合、次の解決策の指示に従います。

- 次の理由により、「jVue が見つかりません」が表示されます。
 - 「管理」→「サーバー設定」→「サーバーの場所」→「ファイル・マネージャ」の Viewer コンテンツの URL に誤りがあります。
 - 必須の jVue のかわりに不正なクライアント・アプレット・エイリアスが指定されています。

解決策: Viewer コンテンツの URL がアクセス可能であり、jVue.jar ファイルがリストされていることを確認します。

- 次の理由により、「サーバーへの接続時にエラーが発生しました。アプレットを再起動しますか?」と表示されます。
 - AutoVue for Agile またはファイル・マネージャが停止しています。
 - 「管理」→「サーバー設定」→「サーバーの場所」→「ファイル・マネージャ」の View Server URL に誤りがあります。
 - AutoVue for Agile の設定に誤りがあるか、使用できません。

解決策: Viewer Server URL がアクセス可能であり、正常な接続ステータスを返すことを確認します。

ファイル・マネージャが使用できない

Web クライアントまたは Java クライアントがファイル・マネージャへの接続を試行したときに次のエラー・メッセージを受け取った場合、次の解決策の指示に従います。

- 次の理由により、「ファイルが見つかりません。」が表示されます。
 - ファイル・マネージャが停止しています。
 - VueServer.ini ファイルが不正なファイル・マネージャを参照しています。

解決策: ファイル・マネージャが稼働していることを確認します。

フォントが正しく表示されない

添付ファイルで特殊フォントを使用している場合、Viewer がインストールされているコンピュータではそれらの特殊フォントがローカルにインストールされている必要があります。そうでない場合、添付ファイルの表示または印刷でファイル・エラーが発生したり、不正なフォント置換が行われる可能性があります。

オペレーティング・システムで使用されているフォント以外のフォントについては、ユーザーのプロファイルの XFONTPATHS パラメータに、フォントの場所への参照が含まれている必要があります。

ポート番号の変更

ポートに競合が生じた場合、一部の AutoVue for Agile PLM ポート番号を変更できます。参照先のすべての場所のポート番号を変更することが重要です。

- ポート 5099 は、AutoVue for Agile PLM とそのクライアントの間の通信に使用されます。

AutoVue for Agile PLM で、¥AVS¥bin フォルダに移動し、jvueserver.properties ファイルを開きます。次のポート情報を探します。

* Socket port number

jvueserver.socket.port=5099

ポート 5099 を別の使用可能なポート番号に変更できます。

AutoVue for Agile ポートを変更する場合、すべての Viewer クライアント上の
AGILE_HOME¥Tomcat¥Tomcat¥webapps¥<FilemgrVirtualPath>¥WEB-INF にある web.xml ファイルの
vueservlet セクションでポート番号を更新します。

- ポート 2001 は RMI に使用されます。

AutoVue for Agile PLM で、¥AVS¥bin フォルダに移動し、jvueserver.properties ファイルを開きます。次のポート情報を探します。

* RMI Registry port number

jvueserver.rmi.port=2001

ポート 2001 を別の使用可能なポート番号に変更できます。

Oracle Enterprise LinuxでのAutoVueモバイル・パックの使用

リリース 5.4 以外の Oracle Enterprise Linux で AutoVue for Agile 20 をインストールする場合、AutoVue モバイル・パックはインストーラでサポートされていません。

AutoVueモバイル・パック・サポートを追加する手順は、次のとおりです。

1. AutoVue for Agile を停止します。
2. AutoVue for Agile インストール・ディレクトリに移動します。
3. bin ディレクトリに移動します。
4. libprivilege.so.20.0.0.7330 ファイルを libprivilege.so.20.0.0.7330.bak に名前変更またはコピーします。
5. インストーラ・ディレクトリ Linux¥AutoVueMobilePackPatch から AutoVue for Agile インストール・ディレクトリの bin ディレクトリに、libprivilege.so.20.0.0.7330 ファイルをコピーします。
6. AutoVue for Agile を再起動し、モバイル・サポートを確認します。

AutoVue for Agile PLMの追加マニュアル

AutoVue for Agile PLM をインストールしたコンピュータでは、AutoVue インストールおよび管理マニュアル (install.pdf) が次の場所にインストールされています。

¥AVS¥docs

次の情報については、AutoVue インストールおよび管理マニュアルを参照してください。

- AutoVue Server コンソールの使用方法

- AutoVue for Agile PLM のデバッグ情報を有効化（ロギング）する方法
- AutoVue for Agile PLM を詳細に設定する方法

AutoVue for Agile の使用方法

この章のトピック

■ このマニュアルの使用方法	19
■ ヘルプを使用する	19
■ AutoVue for Agileについて	20
■ AutoVue for Agile ウィンドウ	21
■ AutoVue for Agileを理解する	22

このマニュアルの使用方法

このマニュアルは、AutoVue オンライン・ヘルプの補足資料です。AutoVue for Agile オンライン・ヘルプおよび他の Oracle Agile マニュアルと併用することを目的としています。

AutoVue Viewer は Agile システムとの統合により、Agile システム機能を利用して添付ファイルの管理能力を発揮します。この統合により、viewer メニュー、ツールバー、ショートカットなどが合理化されます。次の表では、Agile の機能および概念などの役立つ情報が提供されている場所を説明しています。

機能や概念	ドキュメント
Java クライアント・ナビゲーション	Agile PLM スタート・ガイド
Web クライアント・ナビゲーション	Agile PLM スタート・ガイド
オブジェクト間の関係とルール	Agile PLM スタート・ガイド
添付ファイル ファイル・フォルダ・オブジェクトを使用する ファイル・フォルダの一括更新 ファイル・フォルダをルートしレビューする ファイル検証 (ハンドル・チェックサム) ファイル・フォルダ内容を表示し、レッドラインする	Agile PLM スタート・ガイド
ECO、MCO、SCO によってレッドラインする	Product Collaboration ユーザー・ガイド

注意 Agile PLM ドキュメントを検索するには、Web クライアントまたは Java クライアントで「ヘルプ」→「マニュアル」を選択して Agile PLM ドキュメント Web ページを表示します。

ヘルプを使用する

ヘルプを使用するには、AutoVue for Agile メニュー・バーで「ヘルプ」→「目次」を選択します。AutoVue for Agile

オンライン・ヘルプが表示されます。これには、Viewer 機能の使用方法に関する詳細情報が含まれます。

- 注意** ViewerとAgileシステムを統合するために変更されたAutoVue for Agileオンライン・ヘルプに記載されている機能の全リストおよびユーザー・インターフェース詳細は、27ページの「[Agile固有の特徴と機能](#)」を参照してください。

AutoVue for Agileについて

AutoVue for Agile では、オーサリング・アプリケーションを使用せずに様々な形式のファイルを表示できます。データベース、グラフィック、スプレッドシート、ワードプロセッサ、CAD などの様々なアプリケーションで作成したファイルを表示できます。アーカイブ・ファイルでも解凍せずにリストにしたり、表示したりできます。表示するファイルのタイプが自動的に特定されるため、ファイル・タイプを指定する必要はありません。Agile 管理者は、Java クライアントの Agile Administrator モジュールの「Viewer とファイル」ノードでどのタイプのファイルを表示可能とするかを決定します。

- 重要** AutoVue for Agileでファイルを表示するには、ビジネス・オブジェクトに対するAgileディスカバリ、読み取りおよびファイル表示権限が必要です。AutoVue アプリケーションでファイルをレッドラインするには、添付ファイルをレッドラインできる適切な権限が必要です（Agileのデフォルトの役割である「自分をマークアップ」や、ECOによる添付ファイルのレッドラインの場合は、適切な「添付ファイルのレッドライン(他のユーザー)」または「添付ファイルのレッドライン(自分)」権限を含む役割など）。役割および権限の詳細は、Agile Administratorを参照してください。

コメント、メモ、図面をドキュメントに添付するアクションは「マークアップ」と呼ばれます。このアクションは、注釈付けまたはレッドラインとも呼ばれます。「マークアップ」とは、マークアップ・オブジェクトを添付することによってドキュメントに加えられる変更を意味します。AutoVue for Agile を使用すると、ファイルを表示したりマークアップしたりできます。

- 注意** Agile の Web クライアントと Java クライアントでは、添付ファイルのレッドラインがサポートされています。ECO（設計変更指示）のマークアップは、Web クライアントと Java クライアントの「添付ファイルのレッドライン」タブで作成できます。ECO（設計変更指示）の「対象アイテム」タブで該当するレッドライン・タブにアクセスします。ファイル・フォルダ・オブジェクトのマークアップは、Web クライアントと Java クライアントのファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブで作成でき、ECO は必要ありません。

AutoVue for Agile には次の機能があります。

- **柔軟なユーザー定義のオブジェクト** - AutoVue for Agile には、円、雲、多角形、矢印など、様々なマークアップ・オブジェクトが用意されています。オブジェクトには文字を添付でき、長いコメントは組込みのメモに保存できます。
マークアップ・オブジェクトの詳細は、AutoVue for Agile オンライン・ヘルプを参照してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。
- **未編集のオリジナル・ドキュメントの保存** - オリジナル・ドキュメントは修正されません。メモや図面は、メイン・ドキュメントの一部のように表示されますが、すべてマークアップ・ファイルと呼ばれる別のファイルに保存します。マークアップ・ファイルの保存や読み取りを管理する必要はありません。Agile がこれらの作業をします。
- **英語以外の言語およびオペレーティング・システムのサポート** - AutoVue for Agile は、英語以外の多くの言語で使用できます。日本語、中国語、フランス語、ドイツ語、ヘブライ語、スウェーデン語の各オペレーティング・システムでテスト済です。

AutoVue for Agile ウィンドウ

AutoVue for Agile は「添付ファイル」タブ、またはファイル・フォルダの「ファイル」タブから起動できます。

WebクライアントでAutoVue for Agileを起動する手順は、次のとおりです。

テーブルでファイル名のリンクをクリックします。

または

- 1 行以上の行を選択します。

- 9.2.2.x または 9.2.1.x: 「ファイルの表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから「表示」を選択します。

または

9.3.x: 「表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから「表示」を選択します。

注意 「表示」アイコンがボタンで見える場合は、このボタンをクリックします。

AutoVue for Agile を起動すると、AutoVue for Agile のメイン・ウィンドウが表示されます。

注意 AutoVue for Agileの起動の詳細は、27ページの「[AutoVue for AgileでAgile添付ファイルを開く](#)」を参照してください。

JavaクライアントでAutoVue for Agileを起動する手順は、次のとおりです。

添付ファイルの行をダブルクリックします。

または

- 1 行以上の行を選択します。

- 「ファイルの表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから「表示」を選択します。

注意 「表示」アイコンがボタンで見える場合は、このボタンをクリックします。

複数ファイルで「添付ファイル」タブ行を表示する

Webクライアント:

複数ファイルのファイル・フォルダを参照する「添付ファイル」タブ行では、「ファイル名」列に各ファイルへのリンクが表示されます。次のことができます。

- 表示する特定ファイルのファイル名リンクをクリックします。
- 行を選択し、「添付ファイル」タブ・メニューで「表示」→「表示」を選択します。

注意 AutoVue for Agileの起動の詳細は、27ページの「[AutoVue for AgileでAgile添付ファイルを開く](#)」を参照してください。

Javaクライアント:

リリース 9.2.2.x または 9.2.1.x の Agile ビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブでファイルを表示する際、複数ファイルを持つファイル・フォルダを参照する單一行を表示する場合は、「ファイルの選択」ウィンドウが表示されます。「ファイルの選択」ウィンドウにはそのファイル・フォルダ内のファイルが表示され、表示する 1 つ以上のファイルを選択できます。リリース 9.3 では、表示する各ファイルのリンクを選択できます。

AutoVue for Agileを理解する

以降の項では、AutoVue for Agile のメイン・ウィンドウ、パフォーマンス・モードおよびその他の必要な情報について説明します。

AutoVue for Agileモード

AutoVue for Agile には 2 つのパフォーマンス・モードがあります。表示とマークアップです。

表示モード

ビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブまたはファイル・フォルダの「ファイル」タブからドキュメントを開くと、メニュー・バーとツールバーは表示モードになっています。表示モードは AutoVue for Agile のデフォルトのモードです。ドキュメントの編集やマークアップは、マークアップ・モードでのみ可能です。マークアップ・モードについては次の項で説明します。

マークアップ・モード

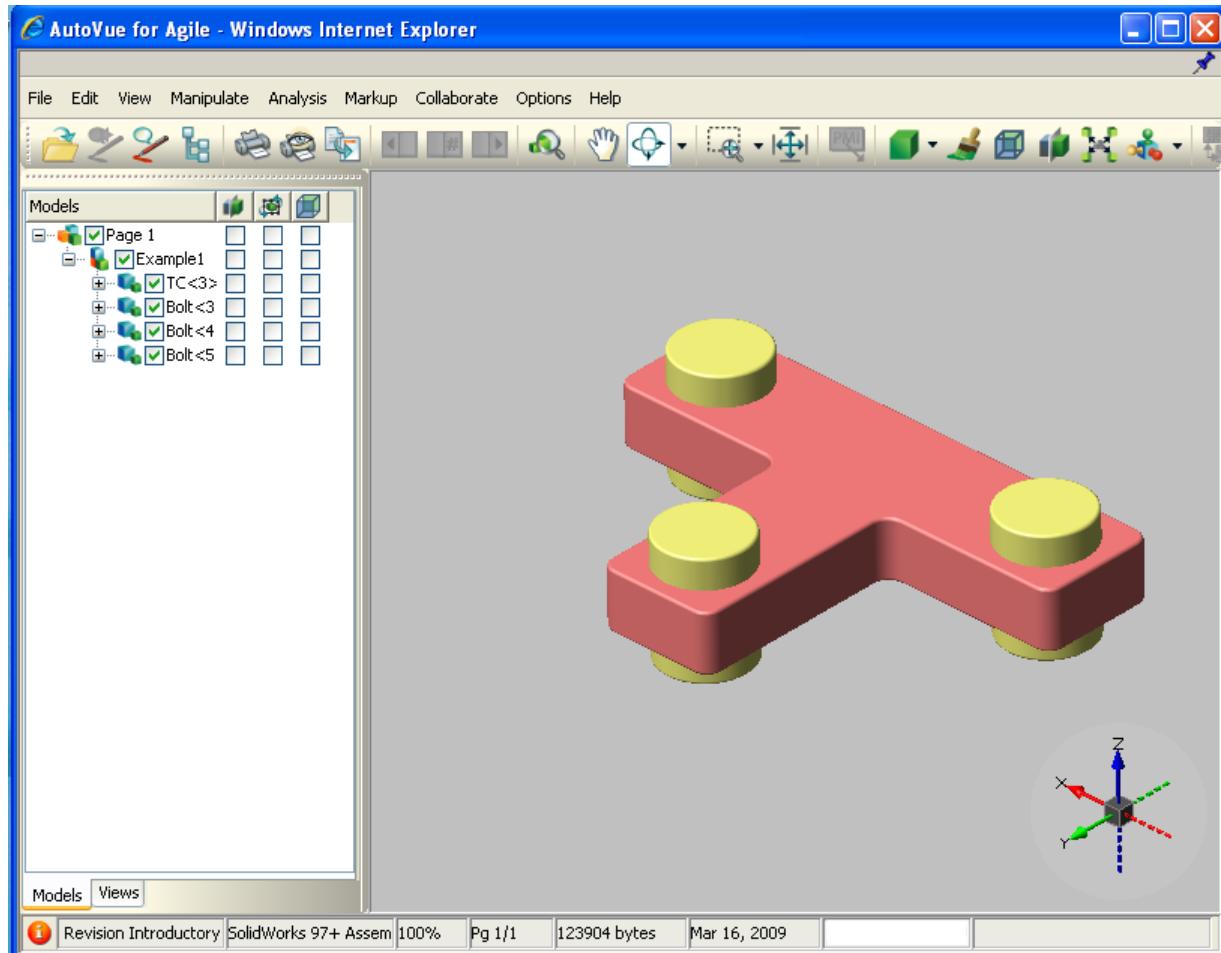
AutoVue for Agile をマークアップ・モードに設定すると、現在表示しているドキュメントをマークアップできます。レッドラインや注釈を付けることも可能です。使用可能なマークアップ・オブジェクトには、様々な形状、メモ、シンボル、文字があります。ファイル・フォルダ・オブジェクトの「添付ファイルのレッドライン」タブまたはファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブから AutoVue for Agile を開くと、表示モードまたはマークアップ・モードのいずれかで開きます。どちらのモードで開くかは、添付ファイルの状態（マークアップが保存されているかどうか）、およびユーザーに割り当てられた権限によって決まります。添付ファイルがチェックアウトされ、レッドラインが許可されていない場合は、AutoVue for Agile マークアップ・モードに変更し、保存されたマークアップを表示できます。表示モードからマークアップ・モードに切り替える方法は、36 ページの「[添付ファイルのマークアップまたはレッドラインについてのガイドライン](#)」を参照してください。マークアップ・ファイルを開くと、自動的にマークアップ・モードに切り替わります。

注意

マークアップ許可のあるタブから Viewer を開いた場合のみ、AutoVue for Agile でマークアップ・モードを利用できます。変更指示の「添付ファイルのレッドライン」タブおよびファイル・フォルダの「ファイル」タブから表示できます。さらに、添付ファイルをレッドラインするには適切な権限が必要です（Agile のデフォルトの役割の「自分をマークアップ」権限など）。割り当てられた役割と権限について質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

AutoVue for Agile ウィンドウのコンポーネント

AutoVue for Agile の作業環境には、次の図に示すようにいくつかの基本コンポーネントがあります。これらは AutoVue for Agile が表示モードまたはマークアップ・モードのいずれであるかによって異なります。



PinMe アイコン

「AutoVue for Agile」ウィンドウの右上には PinMe アイコンがあります。 をクリックすると、「AutoVue for Agile」ウィンドウが開いた状態で固定（ロック）されます。固定された「AutoVue for Agile」ウィンドウに表示される固定済アイコン は、「AutoVue for Agile」ウィンドウが固定されていることを示します。追加添付ファイルを表示する際に、新たに「AutoVue for Agile」ウィンドウが開きます。この機能により、複数の「AutoVue for Agile」ウィンドウを一度に開くことができるため、開いたウィンドウを切り替えて比較したり、複数の表示ファイルを参照できます。

メニュー・バー

すべてのメニュー・コマンドには、ウィンドウ上部にあるメニュー・バーからアクセスします。使用できるコマンドは、AutoVue for Agile のモード、および実行しているタスクによって異なります。

ツールバー

メニュー・バーの下にあるツール・ボタンを使用すると、メニュー・バーに表示されている基本コマンドに容易にアクセスできます。メニュー・コマンドと同様、使用できるツールバー・ボタンは、AutoVue for Agile のモード、および実行しているタスクによって異なります。

ステータス・バー

ステータス・バーは、表示モード、マークアップ・モードのいずれの場合もメイン・ウィンドウの下部に位置しています。各モードのステータス・バーには、次のフィールドが左から右に表示されています。マーカー（次のリストを参照）、現在のアクティブなファイルの名前、ファイル・タイプ、ズーム倍率、現在のページおよび全ページ数、現在のアクティブなファイルのサイズ、ファイル作成日、ポインタの座標位置。

ステータス・バーには、次の種類のマーカーを表示できます。

- **赤い電球のマーカー**は、現在のアクティブなファイルに関連付けられたマークアップ・ファイルがあることを示します。表示モードで、「ファイル」メニューから「マークアップ・モード」をクリックし、「マークアップ・ファイル」ダイアログ・ボックスを表示します。次に、開くマークアップ・ファイルまたはマークアップ・ファイルのグループを選択します。マークアップ・ファイルを開くと、自動的にマークアップ・モードに切り替わります。
- **赤い感嘆符のマーカー**は、現在のアクティブなドキュメントを表示するために必要なメイン・リソースに欠落しているものがあることを示します（たとえば、フォントやCAD ファイルが欠落しているなど）。足りないリソースを迅速に特定するには、赤い感嘆符をクリックし、「プロパティ」ダイアログ・ボックスを開きます。

オブジェクトを移動する

クリックとドラッグ操作を行うには、マウスの左ボタンを使用します。

- **表示モード** - デフォルトでは、クリック・アンド・ドラッグ操作により、サポートされている全ファイル形式（ラスター・ファイルとベクトル・ファイルを含む）の自動拡縮を実行します。拡大する領域を選択します。
- **マークアップ・モード** - オブジェクトが選択されている場合、ドラッグ操作により、オブジェクトを修正し、移動します。オブジェクトが選択されていない場合、ドラッグ操作により、自動拡縮（表示モードと同じ）を実行します。

オブジェクトを選択するには、そのオブジェクトをクリックします。選択されたオブジェクトがテキスト・ボックスで囲まれます。フレームのハンドルをドラッグすると、オブジェクトのサイズが変わります。オブジェクトを移動するには、カーソルが手のポインタに変わるまで、カーソルをマークアップ要素の端（縁）まで移動します。手のポインタを新しい場所にドラッグします。

ショートカット・メニューを使用してコマンドへアクセスする

AutoVue for Agile の機能に簡単かつ迅速にアクセスするには、ショートカット・メニューを使用します。表示ウィンドウの上にポインタを置き、右クリックすると、適切なコマンドにアクセスできます。

表示モードでは、次のコマンドを使用します。

- **全体表示** - ドキュメントの幅を自動的に調整して表示ウィンドウに合わせます。
- **前拡縮** - 自動的に前の拡縮レベルに戻します。
- **ページ幅をズーム** - ドキュメントの幅を自動的に調整して表示ウィンドウに合わせます。
- **マークアップ/マークアップ終了** - マークアップ・モードに切替え、およびマークアップ・モードを終了して、既存のマークアップを開くか、または新規に作成します。マークアップ・コマンドを表示モードで使用できるのは、マークアップが有効な場合のみです。

マークアップ・モードでは、次のコマンドを使用します。

- **線種** - マークアップで使用する線のスタイルを選択します。
- **線幅** - マークアップに使用する線の太さを選択します。
- **塗りつぶしタイプ** - マークアップ・オブジェクトの塗りつぶしのタイプを選択します。「ソリッド塗りつぶし」、「塗りつぶしなし」または「透明塗りつぶし」から選択します。
- **マークアップ・カラー** - マークアップ・オブジェクトの色を選択します。
- **並び替え** - 同時に表示されている複数のマークアップの表示順序を選択します。
- **マークアップ・レイヤー** - 表示されるまたはアクティブなレイヤーの選択、レイヤーの色の変更、新規レイヤーの追加および既存のレイヤーの名前変更を行います。
- **コピー、貼付け、削除**
- **フォーマット (サブ・メニュー)**、**グループ**、**グループ解除**、**回転**、**順序**
- **添付ファイル**
- **すべてのマークアップを閉じる**

これらの AutoVue for Agile コマンドの使用方法は、AutoVue のヘルプを参照してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

進行中の操作をキャンセルする

進行中の操作をキャンセルするには、マウスを右クリックします。現在の操作はただちにキャンセルされます。

たとえば、矩形の作成中に雲形に修正したい場合は、矩形の作成中に右クリックします。矩形はキャンセルされます。

すでに矩形を作成してしまった場合、メニュー・バーから「**編集**」>「**取消し**」を選択するか、矩形を選択してキーボードで「Del」キーを押します。それまで作成していた図は削除されます。

Agile 固有の特徴と機能

この章のトピック

■ AutoVue for AgileでAgile添付ファイルを開く	27
■ アドホック・マークアップ	36
■ 2D機能と特徴	44
■ EDAの機能と特徴	44
■ 3D機能と特徴	45
■ クロス・プロービング	47
■ ファイルを比較する	51
■ ファイルのオーバーレイ	54
■ 概略図とPCBファイルの操作	57
■ リアルタイム・コラボレーション	58
■ デジタル・モックアップ	59
■ AutoVueモバイル	62

AutoVue for AgileでAgile添付ファイルを開く

ビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブ、またはファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブで、ファイルを表示できます。

Webクライアントからファイルを表示

注意 AutoVue for Agile で複数のファイルが表示されている場合、Viewer ツールバーのドキュメント・ナビゲーション・ボタンを使用して、Viewer ウィンドウに表示するドキュメントを選択します。



Webクライアントの「添付ファイル」タブからファイルを表示する手順は、次のとおりです。

1. ファイルを参照するビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブへアクセスします。
2. 添付ファイル・テーブルでファイル名のリンクをクリックします。
 - 添付ファイル行が参照するファイル・フォルダにファイルが1つしかない場合、AutoVue for Agile が開いてそのファイルが表示されます。
 - 添付ファイル行が参照するファイル・フォルダにファイルが複数ある場合は、各ファイルが「ファイル名」列にリストされます。目的のファイルのリンクをクリックします。AutoVue for Agile が開いてそのファイルが表示されます。

または、「添付ファイル」タブの「表示」ボタンを使用できます。

1. ファイルを参照するビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブへアクセスします。
2. 1つまたは複数の添付ファイル行を選択します。
3. 「表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから「表示」を選択します。

- ファイルが1つのみのファイル・フォルダを参照する1つの添付ファイル行を選択すると、AutoVue for Agile が開いてそのファイルが表示されます。
- ファイルが複数あるファイル・フォルダを参照する1つの添付ファイル行を選択すると、AutoVue for Agile が開き、複数ファイルを持つファイル・フォルダにすべてのファイルが表示されます。
- 複数の添付ファイル行を選択すると、AutoVue for Agile が開き、選択したすべての行のすべてのファイルが Viewer に表示されます。

Webクライアントの「ファイル」タブからファイルを表示する手順は、次のとおりです。

1. 表示するファイルを含むファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブへアクセスします。
2. ファイル・テーブルでファイル名のリンクをクリックします。
AutoVue for Agile が開いてそのファイルが表示されます。
3. または、1行以上のファイル行を選択します。
4. タブ・メニューの「表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから「表示」を選択します。
AutoVue for Agile が開き、選択したファイルが表示されます。

Javaクライアントからファイルを表示

注意 AutoVue for Agile で複数のファイルが表示されている場合、Viewer ツールバーのドキュメント・ナビゲーション・ボタンを使用して、Viewer ウィンドウに表示するドキュメントを選択します。



Javaクライアントの「添付ファイル」タブからファイルを表示する手順は、次のとおりです。

1. ファイルを参照するビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブへアクセスします。
2. 添付ファイルの行をダブルクリックします。
 - 添付ファイル行が参照するファイル・フォルダにファイルが1つしかない場合、AutoVue for Agile が開いてそのファイルが表示されます。
 - 添付ファイル行が参照するファイル・フォルダにファイルが複数ある場合は、「ファイルの選択」ウィンドウが表示されます。表示する1つ以上のファイルを選択して、「OK」をクリックします。AutoVue for Agile が開き、選択したファイルが表示されます。

または、「添付ファイル」タブの「ファイルの表示」ボタンを使用できます。

1. ファイルを参照するビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブへアクセスします。
2. 1つまたは複数の添付ファイル行を選択します。
3. 「ファイルの表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから「表示」を選択します。

注意 「表示」アイコンがボタンで見える場合は、このボタンをクリックします。

- ファイルが1つのみのファイル・フォルダを参照する1つの添付ファイル行を選択すると、AutoVue for Agile が開いてそのファイルが表示されます。
- ファイルが複数あるファイル・フォルダを参照する1つの添付ファイル行を選択すると、「ファイルの選択」ウィンドウが表示されます。表示するファイルを選択し、「OK」をクリックします。AutoVue for Agile が開き、選択したファイルが表示されます。
- 複数の添付ファイル行を選択すると、AutoVue for Agile が開き、選択したすべての行のすべてのファイルが Viewer に表示されます。「ファイルの選択」ウィンドウは表示されません。

Javaクライアントの「ファイル」タブからファイルを表示する手順は、次のとおりです。

1. 表示するファイルを含むファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブへアクセスします。
2. ファイル・テーブルでファイル名をダブルクリックします。
AutoVue for Agile が開いてそのファイルが表示されます。
3. または、1行以上のファイル行を選択します。
4. タブ・メニューの「ファイルの表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから「表示」を選択します。

注意 「表示」アイコンがボタンで見える場合は、このボタンをクリックします。

Viewer が開いて選択したファイルが表示されます。

ViewerウィンドウからAgile添付ファイルを開く

AutoVue for Agile ウィンドウが開かれている場合、Viewer メニューから Agile の追加ファイルを選択できます。Viewer の多くの機能において、これは Agile クライアントでファイルを事前に選択する方法と比べて好ましい方法です。

Agile 添付ファイルの選択に使用できる AutoVue for Agile のメニュー選択は、AutoVue for Agile を開いたときに Agile PLM で選択していた機能（表示、比較またはオーバーレイ）および現在表示しているファイルのファイル・タイプによって異なります。

注意 添付ファイルの選択に使用できる AutoVue for Agile のメニュー選択リストは変わることがあるため、特定の Viewer セッションでは次のメニュー選択を使用できないことがあります。

新たな添付ファイルを選択するために使用可能な AutoVue for Agile のメニュー選択は、次のとおりです。

- 「ファイル」→「URLを開く」
- 「解析」→「比較」
- 「ファイル」→「ファイルをオーバーレイとしてインポート」：（2D ファイルがアクティブである場合に使用可能）
- 「ファイル」→「モックアップ用のファイルをインポート」：（3D モデルがアクティブである場合に使用可能）
- 「解析」→「クロス・プローブ」

表示または現在の解析ビューに追加するファイルを選択するために、これらのいずれかのメニュー選択を選択すると、「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。「ファイルを開く」ダイアログの「Agile参照」ボタンにより、Agile ブックマークを使用してファイルを選択できます。「ファイルを開く」ダイアログの「Agile検索」ボタンにより、簡易検索を実行してファイルを選択できます。

Agileブックマークを使用して添付ファイルを選択する手順は、次のとおりです。

1. 使用可能な Viewer のメニュー・オプションを選択します。
 - 「ファイル」→「URLを開く」
 - 「解析」→「比較」
 - 「ファイル」→「ファイルをオーバーレイとしてインポート」

- 「ファイル」 → 「モックアップ用のファイルをインポート」： (3D モデルがアクティブである場合に使用可能)
 - 「解析」 → 「クロス・プローブ」
2. 「ファイルを開く」ダイアログが開くまで、ダイアログのメッセージに従います。
3. 「ファイルを開く」ダイアログの「Agile 参照」ボタンをクリックして、「DMS: ファイルを開く」ダイアログを表示します。
- 「DMS: ファイルを開く」ダイアログに Agile ブックマークがツリー構造で表示されます。

注意 Agile PLM でブックマークをまったく指定していない場合、「ファイルを開く」ダイアログに「Agile 参照」ボタンは表示されません。

4. + をクリックしてブックマークを展開し、アイテム・リビジョンまたはファイル・フォルダ・バージョンを表示します。
5. リビジョン行またはバージョン行をクリックして、表示するファイルを強調表示します。
6. 「DMS: ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

「ファイルを開く」ダイアログの「ファイル名」フィールドに、選択したファイル名が表示されます。

7. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

選択したファイルが AutoVue for Agile に開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

簡易検索を実行して添付ファイルを選択する手順は、次のとおりです。

1. 使用可能な Viewer のメニュー・オプションを選択します。
 - 「ファイル」 → 「URL を開く」
 - 「解析」 → 「比較」
 - 「ファイル」 → 「ファイルをオーバーレイとしてインポート」
 - 「ファイル」 → 「モックアップ用のファイルをインポート」： (3D モデルがアクティブである場合に使用可能)
 - 「解析」 → 「クロス・プローブ」
2. 「ファイルを開く」ダイアログが開くまで、ダイアログのメッセージに従います。
3. 「ファイルを開く」ダイアログの「Agile 検索」ボタンをクリックして、簡易検索を実行する「検索」ダイアログを表示します。
4. 検索を定義して、「検索」ボタンをクリックします。
 - クラス - アイテムなどのオブジェクト・クラスを選択します。
 - パラメータ検索 - テキスト文字列または数値を入力します。

Agile PLM で、オブジェクト ID 番号属性およびオブジェクト名またはオブジェクト説明属性が検索されます。簡易検索はテキスト文字列の「含む」検索のように動作します。検索条件は单一文字列および名前の Agile PLM 検索として、またはパラメータ検索文字列を含む説明として処理されます。ID 番号の場合、Agile PLM は完全に一致するものを検索しますが、ワイルドカード文字を使い検索条件として ID 番号の一部を指定できます。

5. 検索結果テーブルで、オブジェクト番号の横の + をクリックして、そのオブジェクトの添付ファイルを

展開します。

6. リビジョン行またはバージョン行をクリックして、表示するファイルを選択します。
 7. 「ファイルのロード」ボタンをクリックします。
「ファイルを開く」ダイアログの「ファイル名」フィールドに、選択したファイル名が表示されます。
 8. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。
- 選択したファイルが AutoVue for Agile に開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

ファイルのリビジョンまたはバージョンを比較する

ファイルをアイテムの「添付ファイル」タブまたはファイル・フォルダの「ファイル」タブで表示し、次に AutoVue for Agile ウィンドウから比較対象のファイルの他のアイテム・リビジョンまたはファイル・フォルダ・バージョンを選択できます。1つのリビジョンまたはバージョンを比較した後、他のリビジョンまたはバージョンを選択して、AutoVue for Agile ウィンドウでファイルの複数のリビジョンまたはバージョンを比較できます。

添付ファイルの複数のアイテム・リビジョンを比較する手順は、次のとおりです。

1. 「添付ファイル」タブで、比較するファイルを選択します。
2. タブ・メニューから「表示」を選択します。AutoVue for Agile が開いて選択したファイルが表示されます。
3. Viewer メニューで「解析」→「比較」を選択します。「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。
4. ドキュメント・バージョンのチェックボックスを選択します（選択されていない場合）。
5. ドロップダウン・メニューから、比較対象の他のファイル・リビジョンを選択します。

注意 ドロップダウン・リストにはリリース済のアイテム・リビジョンのみが表示されます。
保留中リビジョンの添付ファイルを比較するには、保留中リビジョン・ファイルを表示し、次に「解析」→「比較」を使用して比較するリリース済リビジョンを選択します。

6. 「OK」をクリックします。AutoVue for Agile の2つめのウィンドウに選択したバージョンが開かれ、3つめのウィンドウに2つのファイルの違いが表示されます。
7. 他のリビジョンを比較するには、Viewer メニューから「ファイル」→「比較の終了」を選択します。
8. ステップ3から6を繰り返して、他のアイテム・リビジョンを選択します。

ファイルの複数のファイル・フォルダ・バージョンを比較する手順は、次のとおりです。

1. ファイル・フォルダの「ファイル」タブで、比較するファイルを選択します。
2. タブ・メニューから「表示」を選択します。AutoVue for Agile が開いて選択したファイルが表示されます。
3. Viewer メニューで「解析」→「比較」を選択します。「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。
4. ドキュメント・バージョンのチェックボックスを選択します（選択されていない場合）。
5. ドロップダウン・メニューから、比較対象の他のファイル・フォルダ・バージョンを選択します。
6. 「OK」をクリックします。AutoVue for Agile の2つめのウィンドウに選択したバージョンが開かれ、3つめのウィンドウに2つのファイルの違いが表示されます。
7. 他のファイル・バージョンを比較するには、Viewer メニューから「ファイル」→「比較の終了」を選択します。
8. ステップ3から6を繰り返して、他のファイル・フォルダ・バージョンを選択します。

設計オブジェクト構造の表示

注意 設計データ・モデル・クラス・オブジェクトでの構造化データの表示は、構造内の関連オブジェクトを解決するために「構造」タブに依存しています。

CAD アセンブリ・ファイルを設計オブジェクトで開くと、Agile PLM では下位の CAD 部品ファイルも AutoVue for Agile で自動的に開かれ、CAD 設計全体を表示できます。Agile PLM では、設計オブジェクトの「構造」タブおよびその子設計オブジェクトの「構造」タブでの定義に従って、アセンブリ構造が使用されます。

このプロセスはシームレスに行われ、アセンブリ・ファイルの表示機能の開始以外に、ユーザーによる操作は必要ありません。

次に、CAD 設計表示のために、Agile PLM で設計オブジェクトおよびその「構造」テーブルから CAD 構造ファイルを抽出する方法の詳細を示します。

- 設計オブジェクトの選択されたファイルのファイル・タイプは、Agile Administrator の「Viewer とファイル」ノードの「ファイル関連付け」タブで CAD 構造ファイル・タイプとして指定される必要があります。
- ファイルの抽出に使用される構造は、設計オブジェクトの「構造」タブで明示的に設定されます。
- Agile PLM は、抽出する設計オブジェクト・ファイルを次の方法で特定します。
 - 子設計の任意のファイル行における「ファイル・カテゴリ」属性の値が開始ファイルの「ファイル・カテゴリ」の値と一致する場合、そのファイルは抽出されます。
 - 選択した開始設計オブジェクト・ファイルの「カテゴリ」に値が指定されていない場合、開始設計オブジェクトを含む、すべての子設計のすべてのファイルが抽出されます。
- 設計オブジェクト構造の複数のファイル行で「カテゴリ」の値が開始ファイルと同じである場合、ツリーのどのレベルでもすべてのファイル行が抽出されます。
- ユーザーが複数の設計オブジェクト・ファイルを選択して「表示」を選択した場合、選択した各ファイルは設計構造表示ロジックに基づいて個別に解釈されます。
- 設計オブジェクトがビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブに含まれる場合、Agile PLM では、DocuBOM の表示ルールではなく設計の表示ルールが使用されます。つまり、設計オブジェクト表示ルールは、表示アクションが設計オブジェクトまたはビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブのどちらから開始されるかにかかわらず、常に設計オブジェクトに適用されます。

ドキュメント構造化ファイル・タイプの表示

構造化ファイル・タイプを表示する

注意 ファイル・フォルダ・クラス・オブジェクトでの構造化データの表示は、構造内の関連オブジェクトを解決するために DocuBOM または「関係」タブに依存しています。

DocuBOM で構造化 CAD ファイルを表示するこの方法は依然サポートされていますが、これに代わる設計構造は、CAD データを格納および表示する上でより好ましい方法です。

ドキュメント・オブジェクト BOM 構造を使用して、Agile PLM に CAD データを格納できます。Agile PLM と EC が Engineering Collaboration (EC) CAD コネクタを使用して統合されている場合、この処理は通常、自動的に実行されます。CAD アセンブリ・ファイルが Agile ドキュメント・オブジェクトに添付され、下位の CAD 部品ファイルも Agile ドキュメント・オブジェクトに添付されます。部品ファイル・ドキュメント・オブジェ

クトが CAD アセンブリ・ドキュメント・オブジェクトの「BOM」タブに表示され、添付ファイルの階層ファイル構造が構築されます。

注意 構造化ファイル階層で使用されるファイル・タイプは、Agile Administrator の「Viewer とファイル」ノードで CAD 構造のファイル関連付けにより指定されます。

CAD 構造のアセンブリ添付ファイルを開くと、下位の部品ファイルも AutoVue for Agile に自動的に開かれ、CAD 設計全体を表示できます。このプロセスはシームレスに行われ、アセンブリ・ファイルの表示機能の開始以外に、ユーザーによる操作は必要ありません。

次に、CAD 設計表示のために、Agile PLM でドキュメント BOM 構造から CAD 構造ファイルを抽出する方法の詳細を示します。

- Agile PLM は、CAD 構造ファイル・タイプとして指定されたファイル・タイプのみを抽出します。添付ファイル・タイプが CAD 構造ファイル・タイプとして指定されていない場合、Agile PLM はドキュメント構造で他のファイルを検索しません。
- ファイル・タイプが CAD 構造ファイル・タイプとして指定されている場合、Agile PLM はドキュメント階層の全レベルを検索し、選択されたファイルから始めて、モデル全体を構築するために必要なその他のファイルを抽出します。
- 不要なファイルを抽出しないために、表示ロジックではドキュメントの「添付ファイル」タブの「添付ファイル・タイプ」属性が使用されます。最初に選択された添付ファイルのこの属性に値が指定されている場合（SOURCE など）、「添付ファイル・タイプ」属性がこの値と一致するファイルのみが抽出されます。「添付ファイル・タイプ」属性に値がない場合、構造階層内のすべてのファイルが抽出されます。
- 同一ドキュメントに「添付ファイル・タイプ」がこの値と一致する添付ファイルが複数ある場合、すべてが抽出されて AutoVue for Agile に送信されます。これには、表示操作が開始されたドキュメントが含まれます。
- 階層内のドキュメントに添付ファイルがない場合、または「添付ファイル・タイプ」に適切な値が指定されていない場合、抽出プロセスは終了されず、ツリーの下位で抽出が続行されます。
- Agile の管理者は、**CAD リビジョン BOM** 属性を使用するように Agile PLM を設定できます。この技法は主に標準の Agile Engineering Collaboration (EC) CAD コネクタによって使用され、CAD 設計に対して、保存したとおりに固定された BOM 解決を提供します。この機能が有効になっていると、設計の過去のリビジョンを表示する際、リビジョンは保存したとおりに表示されます。有効になっていないと、子コンポーネントがリビジョンされた場合、設計の過去のリビジョンは若干異なって表示されます（つまり、標準の Agile BOM 解決ロジックに従います）。
- 保留中リビジョンを含め、表示のために任意のドキュメント・リビジョンを選択できます。**CAD リビジョン**属性が有効になっている場合、保留中リビジョンを表示すると、CAD から保存された構造内のアクティブなすべての保留中リビジョンが表示されます。
- CAD 構造ファイル・タイプは、表示、マークアップ、比較、クロス・プローブ、オーバーレイおよびデジタル・モックアップなど AutoVue for Agile のすべての操作でサポートされています。

バージョン・ブラウザの使用

Web クライアントでファイル・フォルダ・オブジェクトが開いている場合、「アクション」メニューの「全バージョンの表示」コマンドを使用して、すべてのバージョンに関する情報を表示できます。

設計オブジェクトが開いている場合、「アクション」メニューの「全バージョンの表示」コマンドを使用して、設計のすべてのバージョンに関する情報を表示できます。

バージョン・パレットを開く手順は、次のとおりです。

1. 「アクション」メニューで、「全バージョンの表示」を選択します。「バージョン」パレットが開きます。

注意 「全バージョンの表示」アクションは Web クライアントでのみ使用できます。Java クライアントでは設計オブジェクトはサポートされていません。

「バージョン」パレットには、各バージョンに関する次の情報が表示されます。

バージョン列	説明
列 1	ファイル・フォルダ・バージョンの承認ステータスが表示されます。 注意 送信スリップに承認者がいる場合のみ、承認ステータスが表示されます。
バージョン	バージョン番号です。
チェックイン日	バージョンがチェックインされた日付およびチェックインを実行したユーザーです。
チェックイン・ユーザー	バージョンがチェックアウトされた場合、これらのフィールドは空です。
変更情報	チェックイン前のバージョンの変更内容を示します。 「ファイル」は、オブジェクトのファイルが変更されたことを示します。たとえば、ファイルの置換、追加または削除です。 設計オブジェクトについて、「構造」は設計の「構造」タブが変更されたことを示します。
ラベル、リビジョン、改訂日	これらは、主に設計データ・モデル・オブジェクトで使用される、バージョン固有の編集可能なフィールドです。

「バージョン」パレットで開始できるアクション

- **表示:** 「表示」ドロップダウン・メニューをクリックして、いずれかのオプションを選択します。
 - **表示:** 任意のバージョン行を選択し、「表示」をクリックして AutoVue for Agile でファイルを表示します。
 - **比較:** 単一ファイル・バージョンでは、2つのバージョン行を選択し、「表示」ボタン・ドロップダウン・リストで「比較」を選択します。AutoVue for Agile により、選択したファイルが比較されます。

設計オブジェクトの「バージョン」パレットには、次の追加アクションが含まれます。

- **比較レポート:** (設計オブジェクトのみ) 比較レポート・ドロップダウン・メニューをクリックし、いずれかのオプションを選択します。
 - **比較:** 2つのバージョン行を選択し、「比較」をクリックして比較レポート・ドロップダウン・メニューで設計を比較します。「設計比較チャート」に比較レポートが表示されます。
 - **検索で比較:** バージョン行を選択し、比較レポート・ドロップダウン・リストで「検索で比較」をクリックします。「検索で比較」パレットが開きます。ドロップダウン・リストで、「最新バージョン」または「すべてのバージョン」のいずれかを選択します。検索文字列を入力し(設計オブジェクトを検索するには*を入力)、簡易検索を実行します。設計のリストから、元の設計オブジェクトと比較する対象を選択します。「設計比較チャート」に比較レポートが表示されます。

設計比較チャート

「設計比較チャート」には、比較対象の設計オブジェクトのレポートが表示されます。

プラス記号をクリックして設計オブジェクトを開くと、添付された子オブジェクトのリストが表示されます。オブジェクトを閉じるには、マイナス記号を使用します。属性およびファイルの詳細を参照するには、グレーのドット・アイコンをクリックします。色は、設計オブジェクトの状態を示します。たとえば、青は追加済、オレンジは変更済、赤は削除済を示します。

- **バージョンのページ:** 設計オブジェクトにはサイズの大きいCADファイルが格納されており、定期的に更新されます。「バージョンのページ」アクションにより、不要な設計バージョンを削除し、ファイル・ストレージを最適化できます。このプロセスを開始するには、設計オブジェクトがチェックイン済の状態である必要があります。ページは元のバージョンから開始され、「構造」タブへと下りていき、子オブジェクトを含むすべてのバージョンに対して実行されます。子オブジェクトをページでできない場合は、プロセスが停止します。

ビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブから各種ファイル・バージョンにアクセス

ビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブから、任意のバージョンの添付ファイルを取得して開き、表示して印刷できます。

ファイル・フォルダ・オブジェクトまでクリックしなくとも、履歴に簡単にアクセスできます。これは、単一ファイルが複数のユーザーまたは様々な機能によって変更およびアクセスされている場合に便利です。たとえば、別のユーザーがどのバージョンで編集したかを容易にトレースし、特定することができます。

「バージョン」ダイアログには、バージョンごとに、バージョン作成日（バージョンが作成された日付）、バージョンにレッドラインがあるか（「レッドライン済」アイコンで示されます）、およびチェックアウト・ユーザー（そのバージョンを作成したユーザー）が表示されます。これによって、「添付ファイル」タブから添付ファイルの履歴（ファイルを変更したユーザーおよびいつ変更されたかなど）を容易に参照できます。

Webクライアントでオブジェクトの「添付ファイル」タブからファイル・フォルダのバージョンを切り替える手順は、次のとおりです。

1. 「添付ファイル」タブで、必要な添付ファイル行を選択します。
2. タブ・メニューで、「詳細」→「バージョンの表示」を選択します。「バージョン」のダイアログが表示されます。
3. 「バージョン」ダイアログで、目的の行を選択し、適切なダイアログ・メニュー・ボタン（「取出し」、「表示」または「印刷」）を選択します。
4. オプションで、2つのバージョン行を選択してから、「表示」アクション・ボタン・ドロップダウン・メニューで「比較」または「オーバーレイ」を選択します。

Javaクライアントでオブジェクトの「添付ファイル」タブからファイル・フォルダのバージョンを切り替える手順は、次のとおりです。

1. 「添付ファイル」タブで、アクセスする添付ファイル行を1つ選択します。
2. 「バージョンの表示」ボタンをクリックします。「バージョン」のダイアログが表示されます。
3. アクセスするバージョン行を選択します。
4. 適切なアクション・ボタン（「取出し」、「開く」、「表示」または「印刷」）をクリックします。
5. オプションで、「レッドライン済」アイコンをクリックし、AutoVue for Agileを開いてレッドラインを表示します。
6. オプションで、2つのバージョン行を選択してから、「表示」アクション・ボタン・ドロップダウン・メニューで「比較」または「オーバーレイ」を選択します。

アドホック・マークアップ

アドホック 2D、3D、および EDA マークアップは、ファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブから行われます。変更指示により制御された 2D、3D、および EDA マークアップは、ECO の「添付ファイルのレッドライン」タブから行われます。マークアップ・ファイルを表示すると、ベース・ファイルとも呼ばれるオリジナル・ファイルも開きます。

注意 変更指示に制御されたマークアップとアドホック・マークアップは、互いに独立しています。

変更指示に制御されたマークアップを表示するには、アイテム「添付ファイル」タブの適切なリビジョン、または変更指示「添付ファイルのレッドライン」タブから、レッドライン・ファイルを開きます（39ページの「[アイテム保留中リビジョンの「添付ファイル」タブからECOレッドラインを表示する](#)」を参照）。

アドホック・マークアップを表示するには、ファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブからレッドライン・ファイルを開きます。

マークアップ - しくみ

マークアップとは、電子ドキュメントに追加する図や書き込みなどを指します。AutoVue for Agile では、マークアップは別のマークアップ・ファイルに保存されるため、元のドキュメントは修正されません。AutoVue for Agile でマークアップ・ファイルを表示すると、メモリーにマークアップがロードされ、元のドキュメントに重ねて表示されます。

1つのドキュメントに対して、いくつもの固有の名前を付けたマークアップ・ファイルを作成できます。これによって、複数の人が同一のドキュメントに対してそれぞれのマークアップ・ファイルを同時に作成できます。各マークアップ・ファイルの情報によって、誰が作成したかも判断できます。

マークアップ・ファイルは、個々に名前を付けたレイヤに分けられます。レイヤを任意の名前で作成し、それぞれ色を付けてドキュメントを整理できます。たとえば、時間的な優先度によって色分けしたり、目的別にレイヤを分けてマークアップも作成できます。マークアップ・ファイルは他の添付ファイルとともに、Agile ファイル・マネージャ (AFM) の一部であるファイル格納庫に保存されます。マークアップ・ファイルは Agile により管理され、レッドライン・ドキュメントを表示する際に自動的に読み取られ、提示されます。

添付ファイルのマークアップまたはレッドラインについてのガイドライン

適切な権限があれば、ファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブで 2D、3D、および EDA ファイルをレッドラインし、ECO の「対象アイテム」タブからアクセス可能な「添付ファイルのレッドライン」タブで Microsoft Office ドキュメント、2D、3D、EDA ファイルをレッドラインできます。

注意 ファイルのマークアップは、ECO の「対象アイテム」タブまたはファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブでのみ作成および編集できます。また、Agile 管理者によって添付ファイルをマークアップまたはレッドラインする権限を割り当てられている必要があります。ECO とファイル・フォルダ・オブジェクトの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

Agile PLM 9.3におけるWebクライアントECOマークアップ

注意 アイテムがすでにレッドラインされている場合、「対象アイテム」テーブルの該当するアイテム行に「レッドライン済」アイコンが表示されます。「添付ファイルのレッドライン」タブでは、その行の添付ファイルがレッドラインされていることを示すが表示されます。レッドラインを開始するには、レッドラインする添付ファイル行を選択し、「レッドライン」ボタンをクリックします。

Webクライアントで、設計変更指示からの添付ファイルをマークアップまたはレッドラインする手順は、次のとおりです。

1. 添付ファイルのマークアップまたはレッドラインが済んでいない場合、未リリースのECOの「対象アイテム」タブに添付ファイル付きアイテムを追加します。アイテムには、未リリースECOに関連付けられた保留中リビジョンがあります。

注意 ECOを通して添付ファイルをレッドラインする場合、保留中リビジョンの添付ファイル・フォルダ・バージョンは特定のバージョン番号に設定する必要があります。フォルダ・バージョンが「LATEST-x」に設定されている場合、レッドライン・マークアップは作成できません。ただし、保留中リビジョンの「添付ファイル」タブでフォルダ・バージョンを編集し、特定のフォルダ・バージョンを参照するよう設定できます。

たとえば、アイテムの保留中リビジョンがファイル・フォルダのフォルダ・バージョン LATEST-7 を参照している場合、「添付ファイル」タブの行を選択し、「バージョン」フィールドをダブルクリックして編集してから7を選択します。「保存」をクリックして編集プロセスを終了します。これで、その添付ファイルのレッドライン・マークアップを作成できるようになりました。「対象アイテム」タブの「添付ファイルのレッドライン」タブで、添付ファイル行を選択し、「レッドライン」ボタンをクリックします。

2. 「対象アイテム」タブで、レッドラインするアイテムの行を選択します。「対象アイテム」タブの下部セクションに、選択したアイテムのレッドライン・タブが表示されます。
3. 「添付ファイルのレッドライン」タブで、1つ以上の行を選択し、「レッドライン」ボタンをクリックします（このボタンは、マークアップが許可されている場合のみアクティブになります）。
4. Viewerオンライン・ヘルプで説明するツールを使用し、添付ファイルをレッドラインします。オンライン・ヘルプを表示するには、メニュー・バーから「ヘルプ」→「目次」を選択してください。

注意 ECOマークアップは、アイテムの保留中リビジョンに対して保存され、これに関連付けられます。ECOが事前にファイルを置換せずにリリースされると、マークアップはアイテムのリリース済リビジョンに対して表示されます。

Webクライアントで、ファイル・フォルダ・オブジェクトからの添付ファイルをアドホック・マークアップまたはレッドラインする手順は、次のとおりです。

1. ファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブで、1つ以上の行を選択し、「レッドライン」ボタンをクリックします（このボタンは、マークアップが許可されている場合のみアクティブになります）。
2. Viewerオンライン・ヘルプで説明するツールを使用し、添付ファイルをレッドラインします。オンライン・ヘルプを表示するには、メニュー・バーから「ヘルプ」→「目次」を選択してください。

注意 アドホック・マークアップはファイル・フォルダ・オブジェクトのバージョンに対して保存され、これに関連付けられます。

Agile PLM 9.2.2.xまたは9.2.1.xにおけるWebクライアントECOマークアップ

注意 アイテムやファイルがすでにレッドラインされている場合、「レッドラインを行う」アイコンのかわりに、「レッドライン済」アイコンが表示されます。

Webクライアントで、設計変更指示からの添付ファイルをマークアップまたはレッドラインする手順は、次のとおりです。

- 添付ファイルのマークアップまたはレッドラインが済んでいない場合、未リリースの ECO の「対象アイテム」タブに添付ファイル付きアイテムを追加します。アイテムには、未リリース ECO に関連付けられた保留中リビジョンがあります。

注意 ECO を通して添付ファイルをレッドラインする場合、保留中リビジョンの添付ファイル・フォルダ・バージョンは特定のバージョン番号に設定する必要があります。フォルダ・バージョンが「LATEST-x」に設定されている場合、レッドライン・マークアップは作成できません。ただし、保留中リビジョンの「添付ファイル」タブでフォルダ・バージョンを編集し、特定のフォルダ・バージョンを参照するよう設定できます。

たとえば、アイテムの保留中リビジョンがファイル・フォルダのフォルダ・バージョン LATEST-7 を参照している場合、「添付ファイル」タブの行を選択し、「編集」ボタンをクリックし、「フォルダ・バージョン」ドロップダウン・リストで 7 を選択します。「保存」をクリックして編集プロセスを終了します。これで、その添付ファイルのレッドライン・マークアップを作成できるようになりました。「対象アイテム」タブで、該当するアイテムの「レッドラインを行う」アイコンをクリックして「レッドライン」ページを開きます。

- 「対象アイテム」タブで、アイテムの隣の「レッドラインを行う」アイコン (または「レッドライン済」アイコン) をクリックして、「レッドライン」ページを開きます。
- 「添付ファイルのレッドライン」タブで、レッドラインを行うファイルの行で「レッドラインを行う」アイコン をクリックします (または、「レッドライン済」アイコン)。 (このアイコンが使用できるのは、マークアップが有効な場合のみです。)
- オンライン・ヘルプで説明するツールを使用し、添付ファイルをレッドラインします。オンライン・ヘルプを表示するには、メニュー・バーから「ヘルプ」→「目次」を選択してください。

注意 ECO マークアップは、アイテムの保留中リビジョンに対して保存され、これに関連付けられます。ECO が事前にファイルを置換せずにリリースされると、マークアップはアイテムのリリース済リビジョンに対して表示されます。

Webクライアントで、ファイル・フォルダ・オブジェクトからの添付ファイルをアドホック・マークアップまたはレッドラインする手順は、次のとおりです。

- ファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブで、レッドラインを行うファイルの行で「レッドラインを行う」アイコン をクリックします (または、「レッドライン済」アイコン)。 (このアイコンが使用できるのは、マークアップが有効な場合のみです。)
- Viewer オンライン・ヘルプで説明するツールを使用し、添付ファイルをレッドラインします。オンライン・ヘルプを表示するには、メニュー・バーから「ヘルプ」→「目次」を選択してください。

注意 アドホック・マークアップはファイル・フォルダ・オブジェクトのバージョンに対して保存され、これに関連付けられます。

JavaクライアントECOマークアップ

Javaクライアントで、設計変更指示からの添付ファイルをマークアップまたはレッドラインする手順は、次のとおりです。

- 添付ファイルのマークアップまたはレッドラインが済んでいない場合、未リリースの ECO の「対象アイテム」タブに添付ファイル付きアイテムを追加します。アイテムには、未リリース ECO に関連付けられた保留中リビジョンがあります。

注意 ECOを通して添付ファイルをレッドラインする場合、保留中リビジョンの添付ファイル・フォルダ・バージョンは特定のバージョン番号に設定する必要があります。フォルダ・バージョンが「LATEST-x」に設定されている場合、レッドライン・マークアップは作成できません。ただし、保留中リビジョンの「添付ファイル」タブでフォルダ・バージョンを編集し、特定のフォルダ・バージョンを参照するよう設定できます。

たとえば、アイテムの保留中リビジョンがファイル・フォルダのフォルダ・バージョン LATEST-7 を参照している場合、「添付ファイル」タブの行を選択し、「編集」ボタン  をクリックし、「編集」ダイアログ・ボックスの「フォルダ・バージョン」ドロップダウン・リストから 7 を選択します。「OK」をクリックして、編集プロセスを終了します。これで、その添付ファイルのレッドライン・マークアップを作成できるようになりました。ECO の「対象アイテム」タブで、追加されたアイテムを選択します。

2. 「添付ファイルのレッドライン」タブで、レッドラインするファイルが含まれる行を選択し、その行の「レッドラインを行う」アイコンをクリックします。
3. AutoVue for Agile が開いたら、「マークアップ」ボタンをクリックします。（このボタンが使用できるのは、マークアップが有効な場合のみです。）
4. Viewer オンライン・ヘルプで説明するツールを使用し、添付ファイルをレッドラインします。オンライン・ヘルプを表示するには、AutoVue for Agile メニュー・バーから「ヘルプ」→「目次」を選択します。

注意 ECO マークアップは、アイテムの保留中リビジョンに対して保存され、これに関連付けられます。ECO が事前にファイルを置換せずにリリースされると、マークアップはアイテムのリリース済リビジョンに対して表示されます。

Javaクライアントで、ファイル・フォルダ・オブジェクトからの添付ファイルをアドホック・マークアップまたはレッドラインする手順は、次のとおりです。

1. レッドラインするファイルが含まれる行をダブルクリックします。
2. AutoVue for Agile が開いたら、「マークアップ」ボタンをクリックします。（このボタンが使用できるのは、マークアップが有効な場合のみです。）
3. Viewer オンライン・ヘルプで説明するツールを使用し、添付ファイルをレッドラインします。オンライン・ヘルプを表示するには、AutoVue for Agile メニュー・バーから「ヘルプ」→「目次」を選択します。

注意 アドホック・マークアップはファイル・フォルダ・オブジェクトのバージョンに対して保存され、これに関連付けられます。

変更指示のマークアップをレッドラインする

2D、3D、EDA ファイルの変更指示レッドラインは、アイテムの保留中リビジョンに基づいています。マークアップの変更は、変更指示の「添付ファイルのレッドライン」タブ、または保留中リビジョン・アイテムの「添付ファイル」タブに表示されます。

重要 AutoVue for Agileの3D機能の使用および3Dファイルへのアクセスは、3DファイルをサポートするAutoVueアプリケーションでのみ可能です。概略図とPCBファイルのAutoVue for Agile機能（EDAファイルとも呼ばれます）は、それらのファイルをサポートするAutoVueアプリケーションでのみ利用可能です。AutoVueの購入またはインストールの詳細は、Oracleコンサルティング - Agile担当にお問い合わせください。

「アイテム保留中リビジョン」の「添付ファイル」タブからECOレッドラインを表示する

保留中リビジョンの変更指示マークアップ・レッドラインは、アイテム保留中リビジョンの「添付ファイル」タブを表示して確認できます。例：リビジョン (C) ECO000453。レッドライン済ファイルは、 アイコン (Web クライアント) または「レッドライン済」 アイコン (Java クライアント) で示されます。

- Web クライアントでは、表示するファイルの行にある「レッドライン済」（リリース 9.2.2.x および 9.2.1.x では、リリース 9.3 では）アイコンをクリックします。
- Java クライアントでは、表示するレッドライン済ファイルを選択し、「レッドライン済」アイコンをクリックします。

レッドライン済ファイルをチェックアウトした後に、「添付ファイル」タブで新バージョンをチェックインした場合、「レッドライン済」アイコンは「添付ファイル」テーブルに表示されません。

Web クライアントで旧バージョンのレッドラインを表示する手順は、次のとおりです。

1. **9.2.2.x/9.2.1.x:** 保留中リビジョンの「添付ファイル」タブで、表示する行の「バージョンの表示」アイコンをクリックします。「バージョン」のダイアログが表示されます。
9.3: 「アクション」メニューから「バージョンの表示」を選択します。
2. レッドラインを表示するバージョン行で、「レッドライン済」（リリース 9.2.2.x および 9.2.1.x では、リリース 9.3 では）アイコンをクリックします。

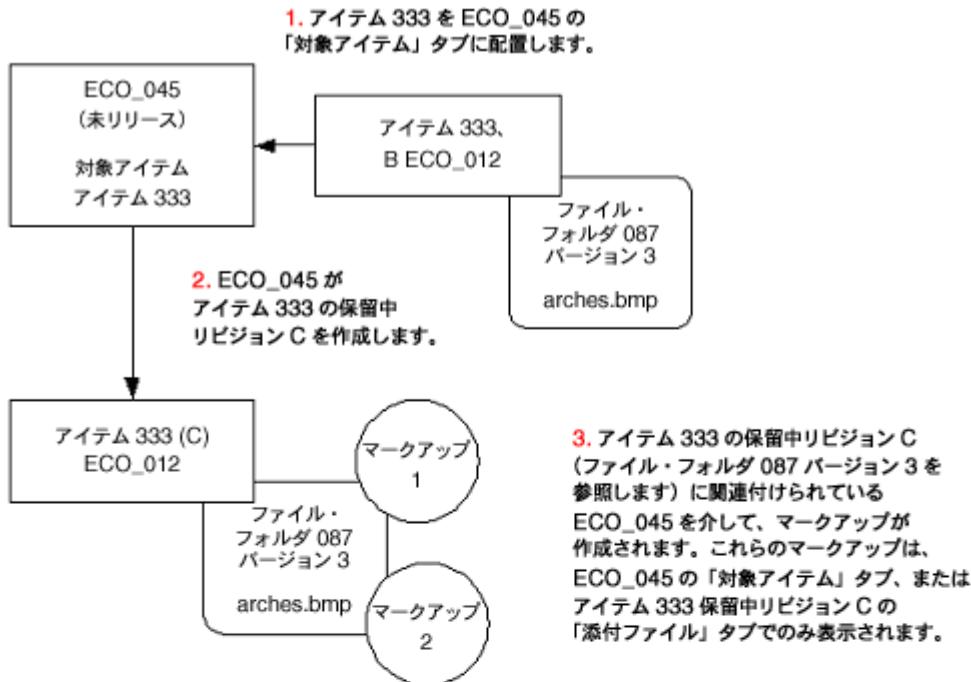
注意 どのファイル・フォルダ・バージョンが変更指示レッドラインに関連付けられているかを判別する必要がある場合は、変更指示の「履歴」タブを参照してください。

Java クライアントで旧バージョンのレッドラインを表示する手順は、次のとおりです。

1. 保留中リビジョンの「添付ファイル」タブで、表示したい行を選択します。
2. 「バージョンの表示」ボタンをクリックします。「バージョン」のダイアログが表示されます。
3. レッドラインを表示するバージョン行で、「レッドライン済」ボタンをダブルクリックします。

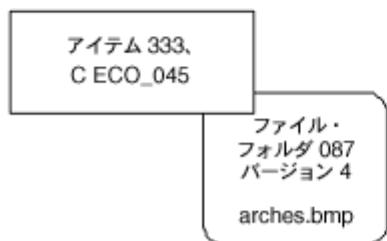
ただし、保留中リビジョン・アイテムの添付ファイルが、変更指示のリリース前に置換されなかった場合、アイテムのリリース済リビジョンからレッドラインにアクセス可能となります。下図は変更指示添付ファイルのレッドライン・プロセスの例を示しています。

『Product Collaborationユーザー・ガイド』と『Agile PLMスタート・ガイド』も参照してください。



4. ECO_045 をレビュー、承認、リリースします。
ファイル・フォルダ 087 内の arches.bmp ファイルはまだ更新されておらず、バージョン 3 のままであります。リリース済みアイテム 333 リビジョン C には、リリース済みアイテムの「添付ファイル」タブで表示可能な添付ファイル・マークアップが含まれていません。

5. arches.bmp をチェックアウト、変更、チェックインします。ファイル・フォルダ 087 がバージョン 4 更新されます。現在のリリース済みアイテム 333 リビジョン C には、添付ファイル・マークアップは含まれていません。



6. レッドラインされた arches.bmp のバージョン 3 表示するには、リリース済みアイテム 333 リビジョン C の「添付ファイル」タブにある「バージョンの表示」機能を使用するか、または ECO_045 の「添付ファイルのレッドライン」タブを使用します。「バージョン履歴」のダイアログ・テーブルで、「レッドライン済み」アイコンをクリック (Web クライアント) またはダブルクリック (Java クライアント) すると、arches.bmp バージョン 3 およびそのマークアップを表示することができます。

ドキュメントをマークアップする

マークアップ・レイヤーやマークアップ・オブジェクトを含め、マークアップの操作方法は、Viewer オンライン・ヘルプを参照してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

ドキュメントのマークアップに関するヒント

ファイルを保存せずに AutoVue for Agile を終了すると、添付ファイルに追加したレッドラインがすべて失われます。

マークアップ・ファイルに情報を添付する

マークアップ・モードで、「マークアップ」→「プロパティ」コマンドを選択すると、「マークアップ情報」ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスには、現在アクティブなマークアップ・ファイルに添付された 5 つの情報フィールドがあります。

マークアップの回転

マークアップの回転を使用すると、シンボル・マークアップ・オブジェクトを回転できます。

シンボル・マークアップ・オブジェクトを回転する手順は、次のとおりです。

1. 回転するシンボル・マークアップ・オブジェクトを選択します。
2. 「マークアップ」→「オブジェクト」→「回転」を選択します。
3. 選択オブジェクトを示す四角形のいずれかにカーソルを合わせます。
4. 十字型の（4 方向を示す）矢印キーが表示されたら、左マウス・ボタンを押したまま、オブジェクトの回転角を調整します。
5. 回転角を調整したら、マウス・ボタンを放します。

マークアップ昇格

マークアップ昇格は、次のようにマークアップを進める、つまり昇格させる機能です。

- 変更ベース・マークアップを、以前の変更指示から現在の変更指示へ
 - アドホック・マークアップを、旧ファイル・フォルダ・バージョンから新規バージョンへ
- これにより、旧マークアップを新規設計と照らし合せて再検証できます。

変更ベース・マークアップのマークアップ昇格

Web クライアントで変更ベース・マークアップを昇格させる手順は、次のとおりです。

1. 変更指示を開き、「対象アイテム」タブを表示します。
2. 「対象アイテム」タブで、レッドラインするアイテムの行を選択します。「対象アイテム」タブの下部セクションに、選択したアイテムのレッドライン・タブが表示されます。
3. 「添付ファイルのレッドライン」タブで、1 つ以上の行を選択し、「レッドライン」ボタンをクリックします。（このボタンがアクティブであるのは、マークアップが有効な場合のみです。）
4. AutoVue for Agile が開いたら、新規マークアップを作成します。AutoVue for Agile の「マークアップ」メニューで、「新規」コマンドを選択します。

5. AutoVue for Agile の「マークアップ」メニューで、「開く」コマンドを選択します。
「マークアップ・ファイル」ダイアログが表示されます。
6. 「すべてのリビジョン」チェックマークをクリックすると、有効なマークアップがすべて表示されます。
使用可能なマークアップは、表示しているファイルと同じファイル拡張子を持つファイルに関連付けられています。
7. 現在のマークアップに昇格させるマークアップ・ファイルを選択します。
8. 「OK」をクリックします。
9. 現在表示中のファイルに、昇格したマークアップが表示されます。
10. 昇格したマークアップを変更指示リビジョンとともに保存するには、Viewer を終了する前にマークアップを保存します。AutoVue for Agile の「マークアップ」メニューで、いずれかの「保存」コマンドを選択します。

Javaクライアントで変更ベース・マークアップを昇格させる手順は、次のとおりです。

1. 変更指示を開き、「対象アイテム」タブを表示します。
2. 「添付ファイルのレッドライン」タブで、次の操作を行います。
 - レッドラインするファイルを含む行で、「レッドラインを行う」アイコンをクリックします。
3. AutoVue for Agile が開いたら、新規マークアップを作成します。AutoVue for Agile の「マークアップ」メニューで、「新規」コマンドを選択します。
4. AutoVue for Agile の「マークアップ」メニューで、「開く」コマンドを選択します。
「マークアップ・ファイル」ダイアログが表示されます。
5. 「すべてのリビジョン」チェックマークをクリックすると、有効なマークアップがすべて表示されます。
使用可能なマークアップは、表示しているファイルと同じファイル拡張子を持つファイルに関連付けられています。
6. 現在のマークアップに昇格させるマークアップ・ファイルを選択します。
7. 「OK」をクリックします。
8. 現在表示中のファイルに、昇格したマークアップが表示されます。
9. 昇格したマークアップを変更指示リビジョンとともに保存するには、Viewer を終了する前にマークアップを保存します。AutoVue for Agile の「マークアップ」メニューで、いずれかの「保存」コマンドを選択します。

アドホック・マークアップのマークアップ昇格

Webクライアントでファイル・フォルダのアドホック・マークアップを昇格させる手順は、次のとおりです。

1. ファイル・フォルダ・オブジェクトを開き、「ファイル」タブを表示します。
2. レッドラインを開始するには、レッドラインする「ファイル」テーブル行を選択し、「レッドライン」ボタンをクリックします。
3. AutoVue for Agile が開いたら、新規マークアップを作成します。Viewer の「マークアップ」メニューで、「新規」コマンドを選択します。
4. AutoVue for Agile の「マークアップ」メニューで、「開く」コマンドを選択します。
「マークアップ・ファイル」ダイアログが表示されます。
5. 「すべてのリビジョン」チェックマークをクリックすると、有効なマークアップがすべて表示されます。

使用可能なマークアップは、表示しているファイルと同じファイル拡張子を持つファイルに関連付けられています。

6. 現在のマークアップに昇格させるマークアップ・ファイルを選択します。

7. 「OK」をクリックします。

現在表示中のファイルに、昇格したマークアップが表示されます。

8. 昇格したマークアップを現在のファイル・フォルダ・バージョンとともに保存するには、Viewer を終了する前にマークアップを保存します。AutoVue for Agile の「マークアップ」メニューで、いずれかの「保存」コマンドを選択します。

Java クライアントでファイル・フォルダのアドホック・マークアップを昇格させる手順は、次のとおりです。

1. ファイル・フォルダ・オブジェクトを開き、「ファイル」タブを表示します。

2. レッドラインを行うファイルの行で「レッドラインを行う」ボタンをクリックします（または、「レッドライン済」ボタン）。（このボタンが使用できるのは、マークアップが有効な場合のみです。）

3. AutoVue for Agile が開いたら、新規マークアップを作成します。Viewer の「マークアップ」メニューで、「新規」コマンドを選択します。

4. AutoVue for Agile の「マークアップ」メニューで、「開く」コマンドを選択します。

「マークアップ・ファイル」ダイアログが表示されます。

5. 「すべてのリビジョン」チェックマークをクリックすると、有効なマークアップがすべて表示されます。

使用可能なマークアップは、表示しているファイルと同じファイル拡張子を持つファイルに関連付けられています。

6. 現在のマークアップに昇格させるマークアップ・ファイルを選択します。

7. 「OK」をクリックします。

現在表示中のファイルに、昇格したマークアップが表示されます。

8. 昇格したマークアップを現在のファイル・フォルダ・バージョンとともに保存するには、Viewer を終了する前にマークアップを保存します。AutoVue for Agile の「マークアップ」メニューで、いずれかの「保存」コマンドを選択します。

2D機能と特徴

CAD 表示やオブジェクトの測定を含め、2D ファイルの操作方法は、AutoVue for Agile オンライン・ヘルプを参照してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

EDAの機能と特徴

EDA の機能が含まれる AutoVue アプリケーションには、次の特徴があります。

- アートワーク形式、PCB/IC レイアウト、概略図、製造形式などを含め、関連するすべての EDA 形式を表示できます。
- PCB レイアウトと関連概略図の間のクロス・プローブ（「クロス・プロービング」を参照）。
- 製造性や製造可能性の違反に関するテストを行い、設計を検証します。
- 様々な形式で部品構成表を作成し、エクスポートします。

EDAのすべての機能の詳細は、Viewerオンライン・ヘルプを参照してください。AutoVue for Agileのメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

3D機能と特徴

照明設定やモデルを含め、3Dファイルの操作方法は、Viewerオンライン・ヘルプを参照してください。AutoVue for Agileのメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

注意 Agile管理者は、3Dファイルを表示するために、Agile Administratorの「Viewerとファイル」ノードの「ファイル・タイプ」リストで3Dファイル拡張子を指定する必要があります。

AutoVueの3D機能には次のものが含まれます。

- 3D比較
- デジタル・モックアップ
- 計測
- 干渉チェック
- クロスセクショニング

重要 3D機能の使用および3Dファイルへのアクセスは、3DファイルをサポートするAutoVueアプリケーションでのみ可能です。概略図とPCBファイルの機能(EDAファイルとも呼ばれます)は、EDAファイルをサポートするAutoVueアプリケーションでのみ利用可能です。AutoVueアプリケーションの購入またはインストールの詳細は、Oracleコンサルティング - Agile担当にお問い合わせください。

Agile PLMでの3D CADアセンブリの表示方法は、次の項を参照してください。

- 32ページの「[ファイル・フォルダの構造化ファイル・タイプを表示する](#)」
- 32ページの「[設計オブジェクト構造の表示](#)」

3Dの基本について

3D CADアセンブリは互いに依存しあった複数のファイルにより構成されています。たとえば、SolidWorksやPro/E CADの設計は、少なくとも1つのアセンブリ・ファイルと、1つまたは複数の部品ファイルで構成されています。3Dファイルは主に、新しい機器の設計図を作成する製造部門で使用されます。3Dファイルは、1つまたは複数のファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブに追加される場合があります。

- 1つのファイル・フォルダ

1つのCADアセンブリに含まれるすべてのファイルが、1つのファイル・フォルダの「ファイル」タブに追加されます。アセンブリを表示すると、アセンブリの最上位ファイルを識別するよう求めるメッセージが表示され、AutoVue for Agileにアセンブリ全体が表示されます。

- 1つの設計

アセンブリ・ファイルは「ファイル」タブに追加され、部品ファイルは「構造」タブに追加された「デザイン」から参照できます。

□ 複数のファイル・フォルダ

- アセンブリ・ファイルは、1つのファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブに追加されます。部品ファイルは、ファイルが含まれる他のファイル・フォルダ・オブジェクトを、ルールのない関係としてアセンブリのファイル・フォルダ・オブジェクトの「関係」タブに追加することで参照できます。
- 3D ファイルは、変更指示（「添付ファイルのレッドライン」）およびファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブを通して、レッドラインできます。

9.3 Webクライアントから 3D CADアセンブリを複数のファイルを含むファイル・フォルダで表示する

Webクライアントの「添付ファイル」タブからCADアセンブリを表示する手順は、次のとおりです。

1. アセンブリを参照するビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブへアクセスします。
2. CAD アセンブリを参照する、複数のファイルを持つ添付ファイル行をクリックします。

注意 複数のファイルを持つ添付ファイル行は「ファイル名」フィールドにファイル・フォルダ・アイコンで示され、そのファイル・フォルダ内のすべてのファイルのファイル名が続けて表示されます。

次のように、「添付ファイル」タブの「表示」ボタンを使用します。

- a. ビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブで、複数のファイルを持つ添付ファイル行をクリックして選択します。
- b. 「表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから「表示」を選択します。

Webクライアントの「ファイル」タブからCADアセンブリを表示する手順は、次のとおりです。

1. 表示するアセンブリの CAD ファイルを含むファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブへアクセスします。
2. アセンブリの最上位ファイルまたは開始ファイルの行をクリックして選択します。
3. 「表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、「表示」メニューを選択します。

9.2.2.xまたは 9.2.1.x Webクライアントから 3D CADアセンブリを複数のファイルを含むファイル・フォルダで表示する

Webクライアントの「添付ファイル」タブからCADアセンブリを表示する手順は、次のとおりです。

1. アセンブリを参照するビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブへアクセスします。
2. CAD アセンブリを参照する、複数のファイルを持つ添付ファイル行をダブルクリックします。選択した「ファイルの選択」ウィンドウが表示されます。

注意 複数のファイルを持つ添付ファイル行は「ファイル名」フィールドにファイル・フォルダ・アイコンで示され、そのファイル・フォルダ内のすべてのファイルのファイル名が続けて表示されます。

または、「添付ファイル」タブの「ファイルの表示」ボタンを使用します。

- a. ビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブで、複数のファイルを持つ添付ファイル行をクリックして選択します。
- b. 「ファイルの表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから「表示」を選択します。
3. 「ファイルの選択」ウィンドウでボタンをクリックして、「選択したファイル以降のすべてのファイルをアセンブリとして表示」オプションを選択します。
4. アセンブリの最上位ファイルまたは開始ファイルであることを示すアセンブリ・ファイル行を

クリックして選択します。

5. 「完了」をクリックします。

Webクライアントの「ファイル」タブからCADアセンブリを表示する手順は、次のとおりです。

1. 表示するアセンブリの CAD ファイルを含むファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブへアクセスします。
2. アセンブリの最上位ファイルまたは開始ファイルの行をクリックして選択します。
3. 「ファイルの表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから「アセンブリとして表示」を選択します。

Javaクライアントから 3D CADアセンブリを複数のファイルを含むファイル・フォルダで表示する

Javaクライアントの「添付ファイル」タブからCADアセンブリを表示する手順は、次のとおりです。

1. アセンブリを参照するビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブへアクセスします。
2. CAD アセンブリを参照する、複数のファイルを持つ添付ファイル行をダブルクリックします。選択した「ファイルの選択」ウィンドウが表示されます。

注意 複数のファイルを持つ添付ファイル行は「ファイル名」フィールドにファイル・フォルダ・アイコンで示され、そのファイル・フォルダ内のすべてのファイルのファイル名が続けて表示されます。

または、「添付ファイル」タブの「ファイルの表示」ボタンを使用します。

- a. ビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブで、複数のファイルを持つ添付ファイル行をクリックして選択します。
- b. 「ファイルの表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから「表示」を選択します。
3. 「ファイルの選択」ウィンドウでボタンをクリックして、「選択したファイル以降のすべてのファイルをアセンブリとして表示」オプションを選択します。
4. アセンブリの最上位ファイルまたは開始ファイルであることを示すアセンブリ・ファイルのファイル行をクリックして選択します。
5. 「OK」をクリックします。

Javaクライアントの「ファイル」タブからCADアセンブリを表示する手順は、次のとおりです。

1. 表示するアセンブリの CAD ファイルを含むファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブへアクセスします。
2. アセンブリの最上位ファイルまたは開始ファイルの行をクリックして選択します。
3. 「ファイルの表示」ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、「表示」を選択します。

クロス・プロービング

クロス・プロービングは、Viewer オンライン・ヘルプでも説明されています。Agile では、この機能は viewer のメニューではなく、ビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブ、またはファイル・フォルダの「ファイル」タブから開始します。Viewer オンライン・ヘルプで、クロス・プロービングに関する詳細を確認してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

重要 クロス・プロービング機能は、この機能をサポートするAutoVueアプリケーションでのみ使用できます。AutoVueアプリケーションの購入またはインストールの詳細は、Oracleコンサルティング - Agile担当にお問い合わせください。

クロス・プロービングを使用して、別の viewer ウィンドウの ECAD 概略図やレイアウト・ファイルを統合できます。

注意 Agile 管理者は、ECAD ファイルを表示するために、Agile Administrator の「Viewer とファイル」ノードの「ファイル・タイプ」リストで ECAD ファイル拡張子を指定する必要があります。

必要なファイルを、クロス・プローブ・アクションを実行した場所と同じ「添付ファイル」タブ、または同じファイル・フォルダの「ファイル」タブから選択できます。または、1つのファイルを現在のタブから選択し、残りのファイルをその他のオブジェクトの添付ファイルから検索することもできます。

「表示」>「検索」>「クロス・プローブ」オプションを使用すると、同じ「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブから2つのファイルを選択せずに、システムでクロス・プローブを使用する他のファイルを見つけることができます。つまり、部品 234 から 1 つの添付ファイルを検索し、部品 765 からもう 1 つの添付ファイルを検索できます。

一方、1つの ECAD ファイルを表示し、後でデスクトップから別のファイルを追加して、viewer でクロス・プロービングの開始もできます。

AutoVue for Agileでのクロス・プロービングの開始

AutoVue for Agile でクロス・プロービングを開始するには、まず適切なファイルを選択して表示します。つまり、クロス・プロービング解析に使用できるファイル・タイプである必要があります。

クロス・プロービングに適したファイルの表示

1. 「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブを表示します。
 2. 作業対象となるファイル行を選択し、次を選択します。
 - Web クライアント: 「表示」→「表示」
 - Java クライアント: 「ファイルの表示」
- AutoVue for Agile が開き、選択したファイルが表示されます。
3. AutoVue for Agile の「解析」メニューで、「クロス・プローブ」を選択します。
- AutoVue for Agile の「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。
4. 次のいずれかの「ファイルを開く」ダイアログの方法を使用して、クロス・プロービング用のファイルを選択します。
 - **参照:** ローカル・ディレクトリを参照し、AutoVue for Agile ウィンドウからファイルを選択して開きます。
 - **Agile 一覧:** Agile ブックマークを使用し、AutoVue for Agile ウィンドウからファイルを開きます。
 - **Agile 検索:** Agile 簡易検索を実行し、AutoVue for Agile ウィンドウからファイルを選択して開きます。

ローカル・ディレクトリを参照して添付ファイルを選択

1. 「ファイルを開く」ダイアログの「参照」ボタンをクリックして、「ファイルを開く」ダイアログを表示します。
2. 検索ドロップダウン・リストを使用し、目的のディレクトリを選択します。

3. 目的のファイルを選択し、「開く」をクリックします。
4. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

選択したファイルがViewerに開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

デジタル・モックアップがアクティブであるときにマークアップが保存されると、すべてのオブジェクトとその用紙の向きを含むデジタル・モックアップの内容が保存されます。

Agile一覧でのAgileブックマークを使用した添付ファイルの選択

1. 「ファイルを開く」ダイアログの「Agile参照」ボタンをクリックして、「DMS: ファイルを開く」ダイアログを表示します。

「DMS: ファイルを開く」ダイアログにAgileブックマークがツリー構造で表示されます。

注意 Agile PLMでブックマークをまったく指定していない場合、「ファイルを開く」ダイアログに「Agile参照」ボタンは表示されません。

2. + をクリックしてブックマークを展開し、アイテム・リビジョンまたはファイル・フォルダ・バージョンを表示します。
3. リビジョン行またはバージョン行をクリックして、表示するファイルを強調表示します。
4. 「DMS: ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

「ファイルを開く」ダイアログの「ファイル名」フィールドに、選択したファイル名が表示されます。

5. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

選択したファイルがViewerに開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

Agile検索での簡易検索の実行による添付ファイルの選択

1. 「ファイルを開く」ダイアログの「Agile検索」ボタンをクリックして、簡易検索を実行する「検索」ダイアログを表示します。

2. 検索を定義して、「検索」ボタンをクリックします。

- クラス - アイテムなどのオブジェクト・クラスを選択します。
- パラメータ検索 - テキスト文字列または数値を入力します。

Agile PLMで、オブジェクトID番号属性およびオブジェクト名またはオブジェクト説明属性が検索されます。簡易検索はテキスト文字列の「含む」検索のように動作します。検索条件は單一文字列および名前のAgile PLM検索として、またはパラメータ検索文字列を含む説明として処理されます。ID番号の場合、Agile PLMは完全に一致するものを検索しますが、ワイルドカード文字を使い検索条件としてID番号の一部を指定できます。

- 添付ファイル・コンテンツの検索 - 添付ファイルのコンテンツも検索する場合は、このパラメータを「はい」に設定します。
3. 検索結果テーブルで、オブジェクト番号の横の+をクリックして、そのオブジェクトの添付ファイルを展開します。
 4. リビジョン行またはバージョン行をクリックして、表示するファイルを選択します。
 5. 「ファイルのロード」ボタンをクリックします。

「ファイルを開く」ダイアログの「ファイル名」フィールドに、選択したファイル名が表示されます。

6. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

選択したファイルが Viewer に開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

Web クライアントと Java クライアントでのクロス・プロービング

クロス・プロービングを実行する手順は、次のとおりです。

1. 「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブを表示します。
2. 作業対象となる両方のファイル行を選択し、次を選択します。
 - 9.2.2.x または 9.2.1.x の Web クライアント: 「表示」→「クロス・プローブ」
 - 9.3 の Web クライアント: 「表示」AutoVue for Agile でファイルが開いてから、「解析」→「クロス・プローブ」を選択します。
 - Java クライアント: 「ファイルの表示」→「クロス・プローブ」
- 各ファイルが別々の Viewer ウィンドウで表示されます。

3. クロス・プロービングを開始します。

Viewer オンライン・ヘルプで、クロス・プロービングに関する詳細を確認してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

検索でクロス・プロービングを実行する手順は、次のとおりです。

1. 「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブを表示します。
2. 作業対象となるファイル行を選択し、次を選択します。
 - 9.2.2.x または 9.2.1.x の Web クライアントのみ: 「表示」→「検索」→「クロス・プローブ」
「ファイルの選択」のダイアログが表示され、3つの「検索」タブが表示されます。
 - Java クライアント: 「ファイルの表示」→「検索」→「クロス・プローブ」
3. 検索ダイアログでは、ビジネス・オブジェクト（たとえば、アイテムや製造元部品など）を検索し、クロス・プローブを使用するオブジェクトの添付ファイルを選択します。

次の検索方法のいずれかを使用します。

- 「検索」タブでは、簡易検索または絞込み検索が可能です。添付ファイルの内容について検索することもできます。
- 「保存された検索」タブでは、ナビゲーション・ウィンドウが開き、ここで検索フォルダを参照し、検索を実行できます。検索結果は「選択したアイテム」テーブルへ移動される場合があります。「OK」をクリックしてください。
- 「ショートカット」タブは、ナビゲーション・ウィンドウを開き、ここで「私のブックマーク」や「最近訪れたところ」からオブジェクトを選択できます。システムは、現在実行している操作に該当するオブジェクトについてのみ、ショートカットを表示します。

検索結果テーブルには、添付ファイルのあるビジネス・オブジェクトのみが表示されます。たとえば、最近表示したビジネス・オブジェクトであっても、添付ファイルがない場合、「ショートカット」タブの「最近訪れたところ」リストにはこのオブジェクトは表示されません。

4. 検索結果が表示されたら、「結果」テーブルの行を選択すると、「関連ファイル」テーブルにこのオブジェクトの関連ファイルが表示されます。
5. 「関連ファイル」テーブルで、添付ファイルを選択して「選択済ファイル」テーブルへ移動します。
6. 希望する添付ファイルの選択が完了するまで、複数検索やショートカットを続けることができます。

7. 完了したら、「OK」をクリックします。

各ファイルが別々のViewerウィンドウで表示されます。

8. クロス・プロービングを開始します。

オンライン・ヘルプで、クロス・プロービングに関する詳細を確認してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

ファイルを比較する

ファイルの比較は、AutoVue for Agile オンライン・ヘルプでも説明されています。Agileでは、ファイルの比較はViewerのメニューからではなく、ファイル・フォルダの「ファイル」タブまたはビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブから開始します。

ファイルの比較機能の詳細は、AutoVue for Agile のオンライン・ヘルプを参照してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

ファイルのマークアップと比較

マークアップ（レッドライン）は、AutoVue for Agile 比較モードではサポートされません。

WebクライアントとJavaクライアントでのファイルの比較

単一ファイル・フォルダの「ファイル」タブまたは単一ビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブから2つのファイルを選択して比較できます。

ファイルの比較を開始する手順は、次のとおりです。

1. 「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブを表示します。
2. 作業対象となる両方のファイルを選択し、次を選択します。
 - Web クライアント: 「表示」→「比較」
 - Java クライアント: 「ファイルの表示」→「比較」

ファイルと比較結果が1つのviewerウィンドウに表示されます。

ファイル比較機能とオプションの詳細は、Viewerメニュー・バーの「ヘルプ」>「目次」を選択してください。

検索でファイルを比較する

検索でファイルを比較機能では、次のことができます。

- ファイルを異なるリリース済アイテム・リビジョンと比較します。
- ファイルを異なるファイル・フォルダ・バージョンと比較します。
- 任意のビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブまたはファイル・フォルダの「ファイル」タブでファイルを選択して、比較に使用するファイルを検索します。

使用する検索に応じて、ビジネス・オブジェクトを選択し、次にそのオブジェクトの関連ファイル・リストからファイルを選択できます。または、適切な権限を持っている場合は、ファイル・フォルダ・オブジェクトを検索し、次に選択したファイル・フォルダの関連ファイル・リストからファイルを選択できます。

注意 アイテム・オブジェクトについては、初版リビジョンと未リリースの保留中リビジョンは関連ファイル・リストに表示されません。

検索でファイルの比較を開始する手順は、次のとおりです。

1. 「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブを表示します。
 2. 作業対象となるファイル行を選択し、次を選択します。
 - 9.2.1.x または 9.2.2.x の Web クライアント: 「表示」→「検索」→「比較」
 - 9.3 の Web クライアント: 「表示」→「検索で比較」（検索ダイアログでオブジェクトを検索できます）
 - Java クライアント: 「ファイルの表示」→「検索」→「比較」

「検索でファイルを比較」ダイアログに 3 つの「検索」タブが表示されます。
 3. 検索ダイアログでは、ビジネス・オブジェクト（アイテムや製造元部品など）を検索し、比較するオブジェクトの添付ファイルを選択できます。
- 次の検索方法のいずれかを使用します。
- 「検索」タブでは、簡易検索または絞込み検索が可能です。添付ファイルの内容について検索することもできます。
 - 「保存された検索」タブでは、ナビゲーション・ウィンドウが開き、ここで検索フォルダを参照し、検索を実行できます。検索結果は「選択したアイテム」テーブルへ移動される場合があります。「OK」をクリックしてください。
 - 「ショートカット」タブは、ナビゲーション・ウィンドウを開き、ここで「私のブックマーク」や「最近訪れたところ」からオブジェクトを選択できます。システムは、現在実行している操作に該当するオブジェクトについてのみ、ショートカットを表示します。
- 検索結果テーブルには、添付ファイルのあるビジネス・オブジェクトのみが表示されます。たとえば、最近表示したビジネス・オブジェクトであっても、添付ファイルがない場合、「ショートカット」タブの「最近訪れたところ」リストにはこのオブジェクトは表示されません。
4. 検索結果が表示されたら、「結果」テーブルの行を選択すると、「関連ファイル」テーブルにこのオブジェクトの関連ファイルが表示されます。
 5. 「関連ファイル」テーブルで、目的のファイルを選択します。
 - 選択した検索オブジェクトがファイル・フォルダの場合、「関連ファイル」テーブルの「バージョン」ドロップダウン・リストから、目的のファイル・フォルダ・バージョンを選択します。
 - 選択した検索オブジェクトがアイテムの場合、「関連ファイル」テーブルにアイテムのリリース済リビジョンごとの添付ファイルが表示されます (widget.dwg - A や widget.dwg - B など、ファイル名とリビジョン番号または文字)。
- 注意** アイテム・オブジェクトについては、初版リビジョンと未リリースの保留中リビジョンは関連ファイル・リストに表示されません。
- 選択した検索オブジェクトがビジネス・オブジェクトの場合、「一致するファイル・タイプのみ表示」チェック・ボックスを選択して、比較対象ファイルと同じファイル・タイプの関連ファイルのみを表示します。
6. 完了したら、「OK」をクリックします。
- 希望する添付ファイルの選択が完了するまで、複数検索やショートカットを続けることができます。

ファイルと比較結果が1つのviewerウィンドウに表示されます。ファイル比較機能とオプションの詳細は、AutoVue for Agileメニュー・バーの「ヘルプ」→「目次」を選択してください。

AutoVue for Agileにおける比較の開始

AutoVue for Agileでファイルの比較を開始するには、まず適切なファイルを選択して表示します。つまり、比較解析に使用できるファイル・タイプである必要があります。

比較に適したファイルの表示

1. 「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブを表示します。
 2. 作業対象となるファイル行を選択し、次を選択します。
 - Web クライアント: 「表示」→「表示」
 - Java クライアント: 「ファイルの表示」
- AutoVue for Agileが開き、選択したファイルが表示されます。
3. AutoVue for Agileの「解析」メニューで、「比較」を選択します。
- AutoVue for Agileの「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。
4. 次のいずれかの「ファイルを開く」ダイアログの方法を使用して、比較するファイルを選択します。
 - **参照:** ローカル・ディレクトリを参照し、AutoVue for Agile ウィンドウからファイルを選択して開きます。
 - **Agile一覧:** Agile ブックマークを使用し、AutoVue for Agile ウィンドウからファイルを開きます。
 - **Agile検索:** Agile 簡易検索を実行し、AutoVue for Agile ウィンドウからファイルを選択して開きます。

ローカル・ディレクトリを参照して添付ファイルを選択

1. 「ファイルを開く」ダイアログの「参照」ボタンをクリックして、「ファイルを開く」ダイアログを表示します。
2. 検索ドロップダウン・リストを使用し、目的のディレクトリを選択します。
3. 目的のファイルを選択し、「開く」をクリックします。
4. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

選択したファイルがViewerに開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

デジタル・モックアップがアクティブであるときにマークアップが保存されると、すべてのオブジェクトとその用紙の向きを含むデジタル・モックアップの内容が保存されます。

Agile一覧でのAgileブックマークを使用した添付ファイルの選択

1. 「ファイルを開く」ダイアログの「Agile参照」ボタンをクリックして、「DMS: ファイルを開く」ダイアログを表示します。

「DMS: ファイルを開く」ダイアログにAgileブックマークがツリー構造で表示されます。

注意	Agile PLMでブックマークをまったく指定していない場合、「ファイルを開く」ダイアログに「Agile参照」ボタンは表示されません。
-----------	---
2. + をクリックしてブックマークを開き、アイテム・リビジョンまたはファイル・フォルダ・バージョンを表示します。

3. リビジョン行またはバージョン行をクリックして、表示するファイルを強調表示します。
4. 「DMS: ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。
「ファイルを開く」ダイアログの「ファイル名」フィールドに、選択したファイル名が表示されます。
5. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

選択したファイルが Viewer に開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

Agile検索での簡易検索の実行による添付ファイルの選択

1. 「ファイルを開く」ダイアログの「Agile 検索」ボタンをクリックして、簡易検索を実行する「検索」ダイアログを表示します。
2. 検索を定義して、「検索」ボタンをクリックします。
 - クラス - アイテムなどのオブジェクト・クラスを選択します。
 - パラメータ検索 - テキスト文字列または数値を入力します。

Agile PLM で、オブジェクト ID 番号属性およびオブジェクト名またはオブジェクト説明属性が検索されます。簡易検索はテキスト文字列の「含む」検索のように動作します。検索条件は单一文字列および名前の Agile PLM 検索として、またはパラメータ検索文字列を含む説明として処理されます。ID 番号の場合、Agile PLM は完全に一致するものを検索しますが、ワイルドカード文字を使い検索条件として ID 番号の一部を指定できます。

- 添付ファイル・コンテンツの検索 - 添付ファイルのコンテンツも検索する場合は、このパラメータを「はい」に設定します。
3. 検索結果テーブルで、オブジェクト番号の横の + をクリックして、そのオブジェクトの添付ファイルを展開します。
 4. リビジョン行またはバージョン行をクリックして、表示するファイルを選択します。
 5. 「ファイルのロード」ボタンをクリックします。

「ファイルを開く」ダイアログの「ファイル名」フィールドに、選択したファイル名が表示されます。

6. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

選択したファイルが Viewer に開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

ファイルのオーバーレイ

ファイルのオーバーレイは、Viewer オンライン・ヘルプでも説明されています。Agile では、この機能は viewer メニューではなく、ファイル・フォルダの「ファイル」タブから実行します。ファイルのオーバーレイ機能の詳細は、Viewer のオンライン・ヘルプを参照してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

重要 ファイルのオーバーレイ機能は、この機能をサポートするAutoVueアプリケーションでのみ使用できます。AutoVueアプリケーションの購入またはインストールの詳細は、Oracleコンサルティング - Agile担当にお問い合わせください。

WebクライアントとJavaクライアントでのファイルのオーバーレイ

ファイルのオーバーレイを開始する手順は、次のとおりです。

1. 「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブを表示します。
2. 作業対象となる両方のファイル行を選択し、次を選択します。
 - Web クライアント: 「表示」→「オーバーレイ」
 - Java クライアント: 「ファイルの表示」→「オーバーレイ」

ファイルは1つの viewer ウィンドウで、1つずつ重ねて表示されます。ファイルのオーバーレイ機能（たとえば、メニュー・バーの「ファイル」→「ファイルをオーバーレイとしてインポート」）とオプションの詳細は、Viewer メニュー・バーの「ヘルプ」→「目次」を選択してください。

Javaクライアントで検索によるファイルのオーバーレイを開始する手順は、次のとおりです。

1. 「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブを表示します。
2. 作業対象となるファイル行を選択し、次を選択します。
 - 9.2.2.x または 9.2.1.x の Web クライアント: 「表示」→「検索」→「オーバーレイ」
「検索でファイルを表示」のダイアログが表示され、3つの「検索」タブが表示されます。
 - 9.3 の Web クライアント: 「表示」 AutoVue for Agile でファイルが開いてから、「ファイル」→「ファイルをオーバーレイとしてインポート」を選択します。
 - Java クライアント: 「ファイルの表示」→「検索」→「オーバーレイ」
「ファイルの選択」のダイアログが表示され、3つの「検索」タブが表示されます。
3. 検索ダイアログでは、ビジネス・オブジェクト（たとえば、アイテムや製造元部品など）を検索し、ファイルのオーバーレイを使用するオブジェクトの添付ファイルを選択します。
次の検索方法のいずれかを使用します。
 - 「検索」タブでは、簡易検索または絞込み検索が可能です。添付ファイルの内容について検索することもできます。
 - 「保存された検索」タブでは、ナビゲーション・ウィンドウが開き、ここで検索フォルダを参照し、検索を実行できます。検索結果は「選択したアイテム」テーブルへ移動される場合があります。「OK」をクリックしてください。
 - 「ショートカット」タブは、ナビゲーション・ウィンドウを開き、ここで「私のブックマーク」や「最近訪れたところ」からオブジェクトを選択できます。システムは、現在実行している操作に該当するオブジェクトについてのみ、ショートカットを表示します。
4. 検索結果が表示されたら、「結果」テーブルの行を選択すると、「関連ファイル」テーブルにこのオブジェクトの関連ファイルが表示されます。
5. 「関連ファイル」テーブルで、添付ファイルを選択して「選択済ファイル」テーブルへ移動します。
6. 希望する添付ファイルの選択が完了するまで、複数検索やショートカットを続けることができます。
7. 完了したら、「OK」をクリックします。

ファイルは1つの viewer ウィンドウで、1つずつ重ねて表示されます。ファイルのオーバーレイ機能（たとえば、メニュー・バーの「ファイル」→「ファイルをオーバーレイとしてインポート」）とオプションの詳細は、Viewer メニュー・バーの「ヘルプ」→「目次」を選択してください。

AutoVue for Agileにおけるオーバーレイの開始

AutoVue for Agile でファイルのオーバーレイを開始するには、まず適切なファイルを選択して表示します。つまり、オーバーレイ解析に使用できるファイル・タイプである必要があります。

オーバーレイ解析に適したファイルの表示

1. 「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブを表示します。
 2. 作業対象となるファイル行を選択し、次を選択します。
 - Web クライアント: 「表示」→「表示」
 - Java クライアント: 「ファイルの表示」
- AutoVue for Agile が開き、選択したファイルが表示されます。
3. AutoVue for Agile の「ファイル」メニューで、「ファイルをオーバーレイとしてインポート」を選択します。
AutoVue for Agile の「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。
 4. 次のいずれかの「ファイルを開く」ダイアログの方法を使用して、オーバーレイするファイルを選択します。
 - **参照:** ローカル・ディレクトリを参照し、AutoVue for Agile ウィンドウからファイルを選択して開きます。
 - **Agile 一覧:** Agile ブックマークを使用し、AutoVue for Agile ウィンドウからファイルを開きます。
 - **Agile 検索:** Agile 簡易検索を実行し、AutoVue for Agile ウィンドウからファイルを選択して開きます。

ローカル・ディレクトリを参照して添付ファイルを選択

1. 「ファイルを開く」ダイアログの「参照」ボタンをクリックして、「ファイルを開く」ダイアログを表示します。
2. 検索ドロップダウン・リストを使用し、目的のディレクトリを選択します。
3. 目的のファイルを選択し、「開く」をクリックします。
4. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

選択したファイルが Viewer に開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

デジタル・モックアップがアクティブであるときにマークアップが保存されると、すべてのオブジェクトとその用紙の向きを含むデジタル・モックアップの内容が保存されます。

Agile一覧でのAgileブックマークを使用した添付ファイルの選択

1. 「ファイルを開く」ダイアログの「Agile 参照」ボタンをクリックして、「DMS: ファイルを開く」ダイアログを表示します。
「DMS: ファイルを開く」ダイアログに Agile ブックマークがツリー構造で表示されます。
2. + をクリックしてブックマークを展開し、アイテム・リビジョンまたはファイル・フォルダ・バージョンを表示します。

注意 Agile PLM でブックマークをまったく指定していない場合、「ファイルを開く」ダイアログに「Agile 参照」ボタンは表示されません。

3. リビジョン行またはバージョン行をクリックして、表示するファイルを強調表示します。
 4. 「DMS: ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。
「ファイルを開く」ダイアログの「ファイル名」フィールドに、選択したファイル名が表示されます。
 5. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。
- 選択したファイルが Viewer に開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

Agile検索での簡易検索の実行による添付ファイルの選択

1. 「ファイルを開く」ダイアログの「Agile検索」ボタンをクリックして、簡易検索を実行する「検索」ダイアログを表示します。
 2. 検索を定義して、「検索」ボタンをクリックします。
 - クラス - アイテムなどのオブジェクト・クラスを選択します。
 - パラメータ検索 - テキスト文字列または数値を入力します。

Agile PLM で、オブジェクト ID 番号属性およびオブジェクト名またはオブジェクト説明属性が検索されます。簡易検索はテキスト文字列の「含む」検索のように動作します。検索条件は单一文字列および名前の Agile PLM 検索として、またはパラメータ検索文字列を含む説明として処理されます。ID 番号の場合、Agile PLM は完全に一致するものを検索しますが、ワイルドカード文字を使い検索条件として ID 番号の一部を指定できます。

 - 添付ファイル・コンテンツの検索 - 添付ファイルのコンテンツも検索する場合は、このパラメータを「はい」に設定します。
 3. 検索結果テーブルで、オブジェクト番号の横の + をクリックして、そのオブジェクトの添付ファイルを展開します。
 4. リビジョン行またはバージョン行をクリックして、表示するファイルを選択します。
 5. 「ファイルのロード」ボタンをクリックします。
「ファイルを開く」ダイアログの「ファイル名」フィールドに、選択したファイル名が表示されます。
 6. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。
- 選択したファイルが Viewer に開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

概略図とPCBファイルの操作

重要

概略図とPCBファイルのAutoVue for Agile機能（EDAファイルとも呼ばれます）は、それらのファイルをサポートするAutoVueアプリケーションでのみ利用可能です。AutoVueの購入またはインストールの詳細は、Oracleコンサルティング – Agile担当にお問い合わせください。AutoVue for Agileに対応したAgile PLM設定の詳細は、管理者ガイドを参照してください。

これらの機能の詳細は、Viewer オンライン・ヘルプを参照してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

リアルタイム・コラボレーション

コラボレーション機能の詳細は、Viewer オンライン・ヘルプを参照してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。次の各項では、AutoVue for Agile サーバー情報およびコラボレーション・セッションに影響する Agile 権限について説明しています。

重要 リアルタイム・コラボレーション機能は、この機能をサポートするAutoVueアプリケーションでのみ使用できます。AutoVueアプリケーションの購入またはインストールの詳細は、Oracleコンサルティング - Agile担当にお問い合わせください。

コラボレーション・セッションの概要

コラボレーション機能を使用すれば、複数のユーザーが対話しながらドキュメントのレビューを同時にを行うことができます。このため、レビューのためにドキュメントを何度もやり取りする手間を省くことができます。Agile ディスカバリ権限、読取り権限、および添付ファイルをレッドラインするための適切な権限（Agile のデフォルトの役割の「自分をマークアップ」など）を持っているユーザーはすべて、コラボレーション機能を使用できます。ECO による添付ファイルのレッドラインの場合は、適切な「添付ファイル・レッドライン」権限を含む役割も必要です（「添付ファイルのレッドライン(他のユーザー)」または「添付ファイルのレッドライン(自分)」）。

必要な Agile 権限がある場合は、「コラボレーション」メニューから、コラボレーション・セッションを開始したり、ホストとして機能できます。また、ホストから依頼された場合にコラボレーション・セッションに参加することもできます。

重要 コラボレーション・セッションのホストを務める場合、予定の参加者全員がディスカバリ権限、読取り権限および添付ファイルをレッドラインするための適切な権限（Agile のデフォルトの役割の「自分をマークアップ」、またECO添付ファイル・レッドラインの場合は、適切な「添付ファイルのレッドライン(自分)」または「添付ファイルのレッドライン(他のユーザー)」権限を含む役割など）を持っていることを確認してください。ファイルを表示およびレッドラインできる場合、参加者は必要な権限を持っています。表示もレッドラインもできない参加者がいる場合は、コラボレーション・セッションを開始する前にAgile管理者に問い合わせてください。Agile管理者によって必要な権限が付与されます。

コラボレーション・セッションに参加するには、コラボレーション・セッション開始時に、すべての参加者が Agile にログインし、viewer でファイルを表示している必要があります。参加者は、コラボレーション・セッションであなたがレビューするファイルを表示する必要はなく、どのファイルでも表示してもかまいません。このため、参加者は読み込み時間の短い小さなファイルを選択して表示することができます。

ホストがコラボレーション・セッションを開始すると、サーバー上にセッション・オブジェクトが作成されます。このオブジェクトはコラボレーション・セッションの間、維持されます。コラボレーション・セッション中は、「コラボレーション」メニューからセッション情報を取得できます。セッション情報として、セッション・テーマ（コラボレーション・セッションに付けられた名前）、セッション ID（各セッション・テーマに割り当たされる一意の ID）、表示されたベース・ファイルの名前、ホスト、および参加ユーザーのリストが表示されます。

コラボレーション・セッション中にセッション・マークアップ・ファイルが作成されます。このファイルに対して、参加者全員がマークアップ要素を追加できます。参加者には異なるレイヤ色が割り当てられるため、各参加者が追加したマークアップ要素を識別できます。マークアップ・ファイルはセッションのホストが所有します。このファイルを保存できるのはホストのみです。

注意 コラボレーション機能を使用するには、すべてのユーザーが同じ AutoVue for Agile サーバーに接続する必要があります。すべてのユーザーが、ユーザー・プロファイルの「システム・プリファレンス」の下にある「プリファレンス」タブで、同じ「優先ファイル・マネージャ」設定を指定する必要があります。分散ファイル・マネージャ環境では、リモート・ユーザーは「優先ファイル・マネージャ」プロファイル設定の変更が必要となる場合があります。

デジタル・モックアップ

3D モードでは、モックアップ機能 (DMU) を使用して、複数のアセンブリの配置と干渉をテストできます。レッドライン・マークアップ要素としてモックアップを保存できます。

AutoVue for Agileにおけるモックアップ (DMU) の開始

AutoVue for Agile でファイルの DMU 分析を開始するには、まず適切なファイルを選択して表示します。つまり、DMU 分析に使用できるファイル・タイプである必要があります。

DMU分析に適したファイルの表示

1. 「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブを表示します。
 2. 作業対象となるファイル行を選択し、次を選択します。
 - Web クライアント: 「表示」→「表示」
 - Java クライアント: 「ファイルの表示」
- AutoVue for Agile が開き、選択したファイルが表示されます。
3. AutoVue for Agile の「ファイル」メニューで、「モックアップ用のファイルのインポート」を選択します。AutoVue for Agile の「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。
 4. 次のいずれかの「ファイルを開く」ダイアログの方法を使用して、DMU 分析用のファイルを選択します。
 - 参照: ローカル・ディレクトリを参照し、AutoVue for Agile ウィンドウからファイルを選択して開きます。
 - Agile 一覧: Agile ブックマークを使用し、AutoVue for Agile ウィンドウからファイルを開きます。
 - Agile 検索: Agile 簡易検索を実行し、AutoVue for Agile 検索ウィンドウからファイルを選択して開きます。

Agile一覧でのAgileブックマークを使用した添付ファイルの選択

1. 「ファイルを開く」ダイアログの「Agile 一覧」ボタンをクリックして、「DMS: ファイルを開く」ダイアログを表示します。
「DMS: ファイルを開く」ダイアログに Agile ブックマークがツリー構造で表示されます。
- 注意** Agile PLM でブックマークをまったく指定していない場合、「ファイルを開く」ダイアログに「Agile 参照」ボタンは表示されません。
2. + をクリックしてブックマークを展開し、アイテム・リビジョンまたはファイル・フォルダ・バージョンを表示します。
 3. リビジョン行またはバージョン行をクリックして、表示するファイルを強調表示します。
 4. 「DMS: ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。
「ファイルを開く」ダイアログの「ファイル名」フィールドに、選択したファイル名が表示されます。

5. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

選択したファイルが Viewer に開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

Agile検索での簡易検索の実行による添付ファイルの選択

1. 「ファイルを開く」ダイアログの「Agile 検索」ボタンをクリックして、簡易検索を実行する「検索」ダイアログを表示します。
2. 検索を定義して、「検索」ボタンをクリックします。
 - クラス - アイテムなどのオブジェクト・クラスを選択します。
 - パラメータ検索 - テキスト文字列または数値を入力します。

Agile PLM で、オブジェクト ID 番号属性およびオブジェクト名またはオブジェクト説明属性が検索されます。簡易検索はテキスト文字列の「含む」検索のように動作します。検索条件は单一文字列および名前の Agile PLM 検索として、またはパラメータ検索文字列を含む説明として処理されます。ID 番号の場合、Agile PLM は完全に一致するものを検索しますが、ワイルドカード文字を使い検索条件として ID 番号の一部を指定できます。

- 添付ファイル・コンテンツの検索 - 添付ファイルのコンテンツも検索する場合は、このパラメータを「はい」に設定します。
3. 検索結果テーブルで、オブジェクト番号の横の + をクリックして、そのオブジェクトの添付ファイルを展開します。
 4. リビジョン行またはバージョン行をクリックして、表示するファイルを選択します。
 5. 「ファイルのロード」ボタンをクリックします。

「ファイルを開く」ダイアログの「ファイル名」フィールドに、選択したファイル名が表示されます。

6. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

選択したファイルが Viewer に開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

ローカル・ディレクトリを参照して添付ファイルを選択

1. 「ファイルを開く」ダイアログの「参照」ボタンをクリックして、「ファイルを開く」ダイアログを表示します。
2. 検索ドロップダウン・リストを使用し、目的のディレクトリを選択します。
3. 目的のファイルを選択し、「開く」をクリックします。
4. 「ファイルを開く」ダイアログで「OK」をクリックします。

選択したファイルが Viewer に開かれるか、必要に応じて現在の解析機能に追加されます。

デジタル・モックアップがアクティブであるときにマークアップが保存されると、すべてのオブジェクトとその用紙の向きを含むデジタル・モックアップの内容が保存されます。

WebクライアントとJavaクライアントでのデジタル・モックアップ

ファイルのデジタル・モックアップを開始する手順は、次のとおりです。

1. 「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブを表示します。

2. 作業対象となるすべてのファイル行を選択し、次を選択します。
 - 9.2.2.x または 9.2.1.x の Web クライアント: 「表示」→「デジタル・モックアップ」
 - 9.3 の Web クライアント: 「表示」→「表示」AutoVue for Agile が開いた後、「ファイル」→「モックアップ用のファイルをインポート」を選択します。
 - Java クライアント: 「ファイルの表示」→「デジタル・モックアップ」
3. 「解析」メニューの機能を含め、Viewer の機能を使用してモデルを操作します。たとえば、「ユーザー座標系の設定」、「操作」、「干渉の確認」、「パーティの整列」などがあります。

これらの機能の詳細は、AutoVue for Agile オンライン・ヘルプを参照してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

検索でファイルのデジタル・モックアップを開始する手順は、次のとおりです。

1. 「添付ファイル」タブまたは「ファイル」タブを表示します。
2. 作業対象となるファイル行を選択し、次を選択します。
 - 9.2.2.x または 9.2.1.x の Web クライアント: 「表示」→「検索」→「デジタル・モックアップ」
「検索でファイルを表示」のダイアログが表示され、3つの「検索」タブが表示されます。
 - 9.3 の Web クライアント: 「表示」→「表示」AutoVue for Agile が開いた後、「ファイル」→「モックアップ用のファイルをインポート」を選択します。
 - Java クライアント: 「ファイルの表示」→「検索」→「デジタル・モックアップ」
「ファイルの選択」のダイアログが表示され、3つの「検索」タブが表示されます。

次の各ステップは、9.2.2.x および 9.2.1.x の Web クライアントおよび Java クライアントにのみ適用されます。

3. 検索ダイアログでは、ビジネス・オブジェクト（たとえば、アイテムや製造元部品など）を検索し、ファイルのモックアップを使用するオブジェクトの添付ファイルを選択します。

次の検索方法のいずれかを使用します。

- 「検索」タブでは、簡易検索または絞込み検索が可能です。添付ファイルの内容について検索することができます。
- 「保存された検索」タブでは、ナビゲーション・ウィンドウが開き、ここで検索フォルダを参照し、検索を実行できます。検索結果は「選択したアイテム」テーブルへ移動される場合があります。「OK」をクリックしてください。
- 「ショートカット」タブは、ナビゲーション・ウィンドウを開き、ここで「私のブックマーク」や「最近訪れたところ」からオブジェクトを選択できます。システムは、現在実行している操作に該当するオブジェクトについてのみ、ショートカットを表示します。

検索結果テーブルには、添付ファイルのあるビジネス・オブジェクトのみが表示されます。たとえば、最近表示したビジネス・オブジェクトであっても、添付ファイルがない場合、「ショートカット」タブの「最近訪れたところ」リストにはこのオブジェクトは表示されません。

4. 検索結果が表示されたら、「結果」テーブルの行を選択すると、「関連ファイル」テーブルにこのオブジェクトの関連ファイルが表示されます。
5. 「関連ファイル」テーブルで、添付ファイルを選択して「選択済ファイル」テーブルへ移動します。
6. 希望する添付ファイルの選択が完了するまで、複数検索やショートカットを続けることができます。
7. 完了したら、「OK」をクリックします。

ファイルは同じ AutoVue for Agile 作業領域へロードされます。

8. 「**解析**」メニューの機能を含め、Viewer の機能を使用してモデルを操作します。たとえば、「ユーザー座標系の設定」、「操作」、「干渉の確認」、「パーツの整列」などがあります。

これらの機能の詳細は、Viewer オンライン・ヘルプを参照してください。AutoVue for Agile のメニュー・バーで、「ヘルプ」→「目次」を選択します。

AutoVueモバイル

Agile PLM では、AutoVue の Web またはデスクトップ・エディションを使用し、Agile PLM で作成されたモバイル・パック・ファイル内のファイルを表示およびマークアップする機能が用意されています。

AutoVue モバイル・プロセスの概要を次に示します。

モバイル・パック・ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

1. Agile PLM で、AutoVue for Agile のファイルを表示モードまたはマークアップ・モードで開きます。
2. 必要に応じてマークアップを作成し、「マークアップ」→「保存」を使用してマークアップを Agile PLM に保存します。
3. AutoVue for Agile コマンド「コラボレーション」→「モバイル・パックの作成...」を使用して、モバイル・パックを作成します。

詳細は、AutoVue for Agile オンライン・ヘルプを参照してください。オンライン・ヘルプを表示するには、AutoVue for Agile メニュー・バーから「ヘルプ」→「目次」を選択します。

AutoVueでのモバイル・パック・ファイルの表示と変更

モバイル・パックは、AutoVue の Web またはデスクトップ・エディションで開いたり変更することができます（Agile PLM 内からは不可）。

1. AutoVue で、「ファイル」→「開く」を使用してモバイル・パックを開きます。
2. モバイル・パック内のファイルおよびマークアップを表示します。
3. 必要に応じて、追加マークアップを作成します。「マークアップ」→「保存」コマンドを使用して、それらのマークアップをモバイル・パック・ファイルに保存します。

モバイル・パック・ファイルからのAgile PLMファイルの更新

1. Agile PLM で、AutoVue for Agile をマークアップ・モードで開きます。Agile PLM で元のオブジェクトを開く必要はありません。

スマート URL オプションを使用して、ベース・ファイルを開かずに AutoVue for Agile をマークアップ・モードで起動できます。次の例に示す書式を使用します。

<http://host.agile.agilesoft.com:8888/Agile/viewer/markup>

2. AutoVue for Agile コマンド「ファイル」→「URLを開く」を使用して、モバイル・パックを開きます。
3. 追加されたマークアップを Agile PLM に保存するには、コマンド「コラボレーション」→「モバイル・パックからの更新...」を使用します。

AutoVue for Agile では変更および使用制限 されている機能

この章のトピック

■ ユーザー・インターフェースの変更.....	63
■ ファイル・ストレージと管理の変更.....	63
■ ファイルを開く機能	64
■ ハイパーリンクを使用する	64

ユーザー・インターフェースの変更

Viewer オンライン・ヘルプで説明されている次の機能は、変更されているか、または利用不可能となっています。

- 複数ファイルを表示するための「ウインドウ」メニューとそのオプション（「新規」、「カスケード」、「水平タイル」、「垂直タイル」）は使用できません。
- ツール・ヒント、簡易メニューは利用できません。
- ツールバーをクリック・アンド・ドラッグし、移動させる機能は利用できません。
- ニーモニック文字のショートカット ([Alt]+文字) は使用できません。また、メニューでは下線文字として表示されていません。
- 「カスタマイズ」>「オプション」メニュー選択には、ツールバーとツール・ヒント設定が含まれていません。

ファイル・ストレージと管理の変更

Agile システムは添付ファイルとマークアップ（レッドライン・ファイル）へのアクセスを管理し、制御するため、Viewer オンライン・ヘルプで説明されている次の機能は変更されているか、利用できない場合があります。

これらの変更の多くは、ファイルを開く、保存する、そして保存する場所などに関連しています。Viewer機能（たとえば、Viewerオンライン・ヘルプで説明されている「ファイル」→「開く」）を使用してファイルを表示するかわりに、Agileオブジェクト「添付ファイル」タブとファイル・フォルダの「ファイル」タブでファイルを選択し、Agileファイル・マネージャ（AFM）の一部であるファイル格納庫から読み取ることができます。この後、ファイルはviewerウインドウに表示されます。マークアップ・ファイルを作成し、保存すると、ファイル格納庫にも保存されます。（36ページの「ViewerでAgile添付ファイルを開く」および「[添付ファイルのマークアップまたはレッドラインについてのガイドライン](#)」を参照してください。）

機能に関するその他の詳細は、AutoVue for Agile オンライン・ヘルプを参照してください。オンライン・ヘルプを表示するには、メニュー・バーから「ヘルプ」→「目次」を選択してください。

ファイルを開く機能

Viewer オンライン・ヘルプで説明されている次の機能は使用できません。

- Viewer 起動表示（空の viewer ウィンドウ）。
- Windows エクスプローラから Viewer ウィンドウへファイルをドラッグ & ドロップして開きます。
- Viewer の「ファイル」メニューの選択肢「開く」、「参照」、「次のファイル」、「前のファイル」、「ファイルのロード」および「閉じる」は、Agile Advanced Viewer では使用できません。
「ファイル」メニューの使用可能なオープン機能の詳細は、「[Viewer ウィンドウから Agile 添付ファイルを開く](#)」(29 ページ) を参照してください。
- Viewer ウィンドウで表示されたファイル・ディレクトリのアーカイブ。
- マークアップ・ファイルのインポートとエクスポート機能は使用できません。3D モデルのインポートとエクスポートは使用できません。
マークアップ・ファイルを含め、すべてのファイルへのアクセスは、Agile システムにより管理されています。Agile でのマークアップ・ファイルの詳細は、36 ページの「[マークアップ - しくみ](#)」および 36 ページの「[添付ファイルのマークアップまたはレッドラインについてのガイドライン](#)」を参照してください。

ハイパーリンクを使用する

ハイパーリンクの使用と作成の詳細は、AutoVue for Agile オンライン・ヘルプを参照してください。オンライン・ヘルプを表示するには、AutoVue for Agile メニュー・バーから「ヘルプ」→「目次」を選択します。

ハイパーリンク・マークアップ要素は作成できますが、Agile ファイル格納庫で他のファイルにハイパーリンクは作成できません。

この viewer 機能の目的は、関連情報を集め、リンクすることです。この機能は、「添付ファイル」タブ（複数のファイル・フォルダ・オブジェクトが添付されている場合もあります）と「関係」タブなど、Agile 機能により提供されています。ファイル・フォルダ・オブジェクトと添付ファイルの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

印刷

この章のトピック

▪ AutoVue for Agileからのドキュメントの印刷.....	65
▪ 印刷のプロパティのヘッダ/フッタ・グループ.....	65
▪ 印刷プロパティのウォーターマークとバナー.....	66
▪ 印刷プロパティのスタンプ・グループ.....	67
▪ DGNファイルを印刷する.....	67

AutoVue for Agileからのドキュメントの印刷

ビジネス・オブジェクトの「添付ファイル」タブから添付ファイルを印刷する方法は、Agile PLM スタート・ガイドの添付ファイルの操作に関する項を参照してください。

ファイル・フォルダ・オブジェクトの「ファイル」タブから添付ファイルを印刷する方法は、Agile PLM スタート・ガイドのファイル・フォルダの操作に関する項を参照してください。

Viewer からの印刷の詳細は、Viewer オンライン・ヘルプを参照してください。オンライン・ヘルプを表示するには、Viewer メニュー・バーから「ヘルプ」→「目次」を選択してください。

Agile管理者がAutoVue for Agile印刷オプションをカスタマイズする方法は、69ページの「[AutoVue for Agileの管理タスク](#)」を参照してください。

次の各項では、AutoVue を Agile システムに統合するために変更された印刷機能について説明しています。

印刷のプロパティのヘッダ/フッタ・グループ

このグループでは、ドキュメントのすべての印刷ページに入るヘッダとフッタを設定します。

注意 これらの設定は、Agile 管理者が管理および修正します。

ヘッダおよびフッタの設定を表示するには

「ヘッダ/フッタ」タブを選択します。

パーセント記号は、%% で示されます。他のコードは次のとおりです。

- %f = ドキュメントの完全なパス（たとえば D:\PICS\TIFF\CTROK.TIF）
- %v = ドキュメントのドライブ
- %d = ドキュメントのディレクトリ（たとえば D:\PICS\TIFF）
- %b = ドキュメントのベース名（たとえば CTROK）

- %e = ドキュメントのファイル拡張子 (たとえば TIF)
- %n = ドキュメントの合計ページ数
- %p = 現在のページ番号
- %N = 合計タイル・ページ数
- %P = 現在のタイル番号
- %r = 新規行
- %F = Excel ネイティブの印刷設定
- %Y = 日付: 年
- %M = 日付: 月
- %D = 日付: 日
- %W = 日付: 曜日
- %H = 時刻: 時
- %U = 時刻: 分
- %S = 時刻: 秒

印刷プロパティのウォーターマークとバナー

「印刷プロパティ」ダイアログ・ボックスには「ウォーターマーク」タブが含まれています。このタブは、AutoVue for Agile の「印刷プロパティ」ダイアログ・ボックスでは変更できません。

「ウォーターマーク」と「バナー」設定は Agile Administrator で定義され保持されます。Agile Administrator ウォーターマークとバナー設定により、Agile オブジェクトに添付されたファイルのプリントアウトにバナーとウォーターマークを表示するかどうか、またこれらのバナーとウォーターマークの内容を指定できます。バナーとウォーターマークは AutoVue for Agile を使用して印刷したファイルに表示されます。

添付ファイルのウォーターマークはファイルの下に挿入されます。したがって、ソリッド形式のファイル・タイプ (PDF、BMP など) では、ウォーターマークは表示されません。CAD などの透過性を持つファイル・タイプでのみ表示されます。

ウォーターマーク・グループ

現在のドキュメントの内容の上に、薄い透過性のウォーターマークが印刷されます。

注意 高解像度のモノクロ印刷の場合、透過性のウォーターマークが現在のドキュメント内容の上に印刷されます。低解像度のモノクロ印刷の場合も、ウォーターマークは現在のドキュメントの内容の上に印刷されますが、透過性ではありません。

これらのウォーターマーク設定は、Agile 管理者が管理および修正します。『管理者ガイド』を参照してください。詳細は、Viewer の管理タスクに関する項を参照してください。

印刷プロパティのスタンプ・グループ

注意 AutoVue for Agile の設定によっては、本機能が利用できないことがあります。

DGNファイルを印刷する

AutoVue for Agile では MicroStation と同じように、拡張子が DGN のファイルを印刷するように設定できます。このオプションはサーバー側で設定する必要があります。詳細は、Agile システム管理者にお問い合わせください。

AutoVue for Agile の管理タスク

この章のトピック

▪ 印刷オプションを設定する	69
▪ フォントを追加する	71
▪ Excelファイルを表示する	71

注意 AutoVue for Agile に関する Agile PLM 管理者設定の詳細は、管理者ガイドの「Viewer とファイル」の章を参照してください。

注意 追加の AutoVue マニュアルがどこで見つかるかを含め、AutoVue for Agile サーバーの詳細は、Agile PLM システムの適切な Agile インストール・ガイドを参照してください。AutoVue for Agile サーバーの設定に関する章も参照してください。

印刷オプションを設定する

一部のファイル形式では、正しく印刷するために特別な印刷設定が必要になります。一般に、全ユーザーまたは個別のユーザーに対する印刷設定を変更できます。

- 全ユーザーに対する印刷設定を変更するには、AVS¥bin¥allusers.ini ファイルの一部のパラメータを修正する必要があります。
- 個別のユーザーに対する印刷設定を変更するには、AVS¥bin¥profiles の下にある各ユーザーの.ini ファイルのパラメータの一部を修正する必要があります。

注意 allusers.ini ファイルのオプションを修正しても、既存のユーザー・プロファイルが自動的に修正されるわけではありません。すべての個別ユーザー・プロファイルを編集することは事実上不可能であるため、allusers.ini ファイルを修正した場合は、以下に示した手順で既存のユーザー・プロファイルを削除してください。ユーザーが次回AutoVue for Agileを開くときに、新しいallusers.ini オプション設定を含む新規ユーザー・プロファイルが作成されます。各自のユーザー・プロファイルがリセットされることを事前にユーザーに通知してください。

印刷時のウォーターマーク、ボーダ、およびヘッダ（バナー）の表示方法を変更するには、次の.ini ファイル・パラメータを修正する必要があります。

- [OPTIONS] - HPBACKGROUND、KEEPORIGINALCOLORS、SWSHOWVIEWPORTBORDER
- [PRINTWATERMARK] - FONTNAME、fontsize、ORIENTATION、FONTSTYLE
- [PRINTHEADERS] - FONTNAME、fontsize、ORIENTATION、FONTSTYLE

次に、ウォーターマークおよびボーダの印刷手順と、ヘッダおよびウォーターマークの修正手順について説明します。

.hpgおよび.pltファイルのウォーターマークを印刷する

.hpg および.plt ファイルのウォーターマークを正しく印刷するには、背景色を正しく設定する必要があります。

注意 ウォーターマークのイメージ、またはウォーターマークのイメージで使用される色が透過性ではない場合、ウォーターマークは表示できません。

背景色を設定するには

1. JVue サーバーをシャットダウンします。
2. AutoVue for Agile サーバーがインストールされているドライブの AVS¥bin¥Profiles フォルダを参照します。
3. このフォルダのユーザー・プロファイル (John Smith.ini など) をすべて削除します。
4. allusers.ini ファイル (AVS¥bin¥allusers.ini) を編集します。
5. [OPTIONS]セクションで、次の 2 行を追加または更新します。

HPBACKGROUND = 0

KEEPORIGINALCOLORS = 1

SolidWorks ファイルのビューポート・ボーダを印刷する

SolidWorks ファイルのビューポート・ボーダを正しく印刷するには、ビューポート・ボーダの表示および印刷を有効にする必要があります。

オプションを有効にするには

1. JVue サーバーをシャットダウンします。
2. AutoVue for Agile サーバーがインストールされているドライブの AVS¥bin¥Profiles フォルダを参照します。
3. このフォルダのユーザー・プロファイル (John Smith.ini など) をすべて削除します。
4. allusers.ini ファイル (AVS¥bin¥allusers.ini) を編集します。
5. [OPTIONS]セクションで、次の行を追加または更新します。

SWSHOWVIEWPORTBORDER = 1

ヘッダとウォーターマーク・フォントの設定を修正する

注意 フォント・サイズが大きすぎる場合やウォーターマーク・テキストの文字が多すぎる場合、ウォーターマークが切り取られることがあります。これにより、ウォーターマークでイメージが歪むことがなくなります。

ウォーターマークのフォント・サイズを設定するには

1. JVue サーバーをシャットダウンします。
2. AutoVue for Agile サーバーがインストールされているドライブの AVS¥bin¥Profiles フォルダを参照します。
3. このフォルダのユーザー・プロファイル (John Smith.ini など) をすべて削除します。
4. allusers.ini ファイル (AVS¥bin¥allusers.ini) を編集します。

5. [PRINTHEADERS]セクションおよび[PRINTWATERMAK]セクションで、Fontname、Fontsize、Orientation、およびFontstyleの行を更新します。次に例を示します。

FONTPNAME = Serif

FONTSIZE = 24

ORIENTATION = 1

FONTSTYLE = 2

注意 ORIENTATION の値として、1（縦）または 2（横）を指定できます。

フォントを追加する

特定のフォントが AutoVue for Agile により認識されるように、allusers.ini 設定ファイルにフォント・パスを追加できます。

フォントを追加する手順は、次のとおりです。

1. JVue サーバーをシャットダウンします。
2. AutoVue for Agile サーバーがインストールされているドライブの AVS¥bin¥Profiles フォルダを参照します。
3. このフォルダのユーザー・プロファイル (John Smith.ini など) をすべて削除します。
4. allusers.ini ファイル (AVS¥bin¥allusers.ini) を編集します。
5. [OPTIONS]セクションで、次の行を更新します。

XFONTPATHS = {paths}

6. フォント・ファイルの完全なパスを行に追加します。セミコロンでパスを区切ります。
7. allusers.ini ファイルを保存します。
8. Web ブラウザのキャッシュをクリアします。
9. JVue サーバーを再起動します。

Excel ファイルを表示する

AutoVue for Agile で Excel ファイルを表示する場合、Viewer のステータスバーにリストされるページ数は Excel ワークシートの数であり、AutoVue for Agile メニュー・コマンド「表示」→「ページ」により、表示する別の Excel ワークシートを選択できます。